

平成 4 年度
船員管理システムコース
帰国研修員フォローアップチーム報告書

平成 4 年 12 月

国際協力事業団
東京国際研修センター

東国セ

JR

92 - 505

平成四年度 船員管理システムコース 帰国研修員フォローアップチーム報告書

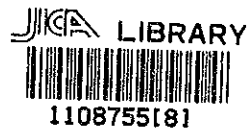
平成四年十二月

国際協力事業

02 00

6

平成4年度
船員管理システムコース
帰国研修員フォローアップチーム報告書



平成4年12月

国際協力事業団
東京国際研修センター

国際協力事業団

25512

マイクロ
フィルム作成

序 文

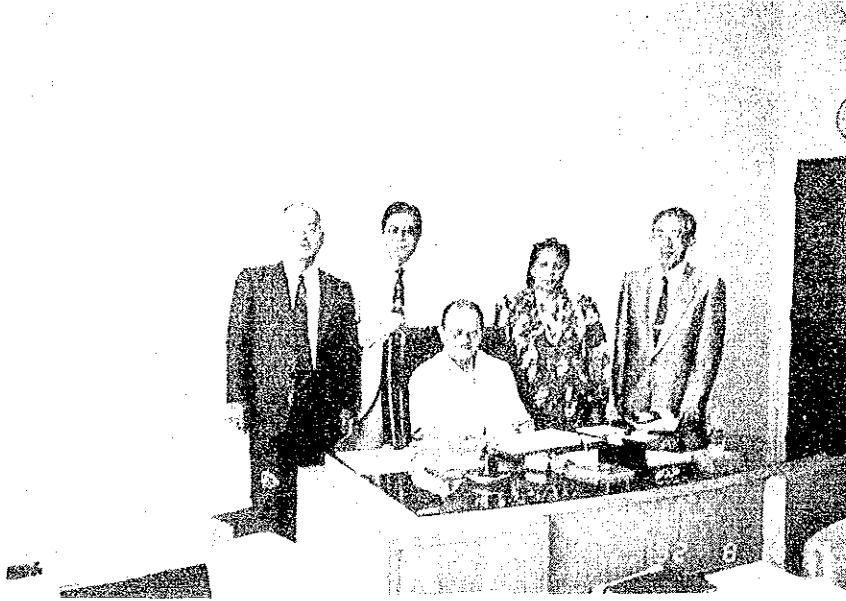
この報告書は、国際協力事業団が、運輸省船員部及び財団法人海事国際協力センターの協力のもと実施している、集団研修「船員管理システム(旧称：船員教育行政)コース」に参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として、エジプト国及びタンザニア国の2ヶ国を対象として派遣されたフォローアップチームの調査結果を取りまとめたものである。

本書が、当該研修分野における各国の実情・問題点、帰国研修員の活動状況及び研修コースに対する要望について、関係各位の一層のご理解の一助となれば幸いである。

なお、今回の調査業務に当たり、多大のご支援、ご協力を賜った外務省、運輸省、在外公館関係者、財団法人海事国際協力センターならびにその他関係各位に深い意を表する次第である。

平成4年12月

国際協力事業団
東京国際研修センター
所長 田口 定則

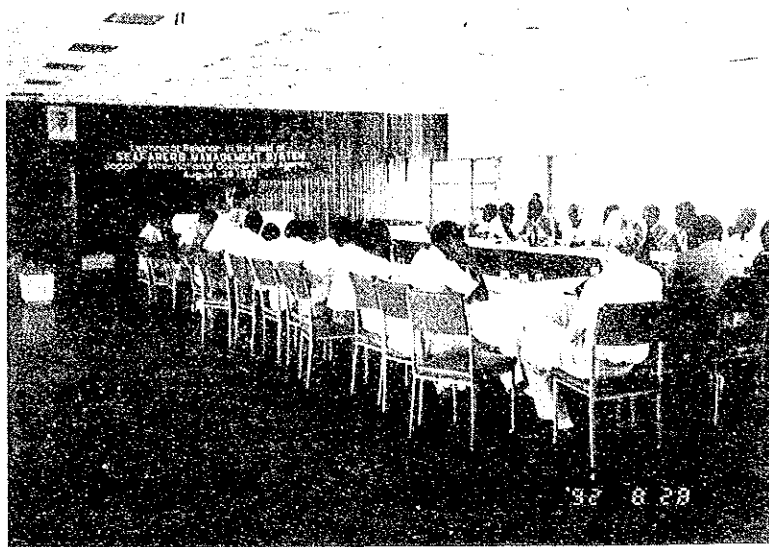


SUEZ CANAL AUTHORITY
Mr. Adel Abdel-Kadel ZAKL

(Deputy Director, Organization & Training Dept.)と共に意見交換後記念撮影



於アレキサンドリア、エジプト
フレンドシップパーティー後イクスパーティシバントと共に記念撮影



タンザニアにてのセミナー風景



目 次

序文

写真

I. 派遣チームの概要	1
1. 派遣目的	1
2. 団員構成	2
3. 調査日程・主要面会者	3
II. フォローアップチーム調査内容	9
1. 調査方法及び調査 T/R	9
2. 調査国における当該技術の現状(各国別)	12
(1) エジプト	12
A. 海事行政システムの現状	12
B. 船員教育機関の現況	14
1) 海事大学校	16
2) 機関技術大学校	16
3) 職業訓練センター	16
C. 海技資格免許制度	41
1) エジプトにおける航海士及び機関士の海技免状	41
2) アラブ海運アカデミー(AMTA)航海・機関学部学生の 海技免状取得プログラム	42
D. 問題点	43
1) 船舶職員の教育訓練期間の見直し	43
2) 海技資格制度の見直し	44
(2) タンザニア	45
A. 船員教育制度の現状と課題	45
1) 海技免状制度	45
2) 養成訓練計画	46
3) 船員教育機関の概要	48
B. 船員行政システムの現状と課題	49
1) 船員行政の概要	49
2) ザンジバル海運公社における船員管理	50
3) タンザニア港湾庁における船員管理	51

3. 質問票及び面接での調査結果要約(各国別).....	52
(1) エジプト.....	52
A. 関係機関の一般的コメント(面接内容要約).....	52
B. 関係機関の本コースに対する反応(質問票要約).....	53
C. 帰国研修員の本コースに対する反応(質問票要約).....	54
(2) タンザニア.....	55
A. 関係機関の一般的コメント(面接内容要約).....	55
B. 関係機関の本コースに対する反応(質問票要約).....	56
C. 帰国研修員の本コースに対する反応(質問票要約).....	58
III. 技術セミナーの概要.....	61
1. 技術セミナー(指導)実施内容.....	61
2. 実施状況(日時、場所、参加者).....	61
3. 実施成果等.....	62
IV. 当該研修コース(カリキュラム等)改善への具体的提言.....	63
V. 添付資料.....	65
1. 平成3年度当該コースの概要.....	65
(1) コース名等.....	65
(2) コース目的及び背景.....	65
(3) 到達目標.....	66
(4) 研修カリキュラム.....	66
(5) 研修実施体制及び運営.....	67
(6) 年度別国別受入実績表.....	68
(7) コース終了時のエバリュエーション集計結果.....	69
2. 本調査団対象帰国研修員名簿ー動向調査結果(エジプト、タンザニア).....	73
3. QUESTIONNAIRE(関係機関用、帰国研修員用).....	76
4. 技術セミナー配布用レジユメ.....	87
5. 当該国訪問機関に提出した英文所見(エジプト、タンザニア).....	92

1. 派遣チームの概要

1. 派遣目的

本コースは昭和46年度「船員教育行政コース」として発足以来毎年実施され、平成2年度で20回目を迎え、廃止された。その後、わが国の船員管理システムを例として、船員の養成から船員行政に基づく労務管理までの一貫した知識・技術を付与するべく、「船員教育行政コース」カリキュラムを見直し、平成3年度から「船員管理システムコース」として実施されている。これまで「船員教育行政コース」も含めて、通算23ヶ国から151名の研修員が参加している。

今回のフォローアップチームは、「船員教育行政コース」及び「船員管理システムコース」に参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として、両コースに参加した各国のうち、エジプト国およびタンザニア国を対象とし、主に帰国研修員を対象として現地にて技術セミナーを開催するとともに、帰国研修員の所属機関及び関係機関・施設を訪問し、わが国で実施した研修の成果を測定し、また、関係者との面接及び関連施設の見学を通して、当該研修分野の現状を調査し当該研修分野に係る技術的問題点及び要望を把握することにより、今後の研修員受入事業並びにフォローアップ事業の向上・改善に資する事を目的として派遣された。

具体的な業務内容は以下のとおりである。

- ① 帰国研修員にあらかじめ質問書を送付し、その回収・分析をもとに研修の成果及び技術的問題点についての意見を聴取する。
- ② 帰国研修員の所属機関及び関係技術協力窓口機関を訪問し、相手国の当該分野における一般的実情・技術水準及び今後のわが国の研修に対するニーズを把握する。
- ③ 現地にて技術セミナーを開催し、当該分野に係る我国の技術情報を提供する。
- ④ 上記の作業をもとに、現地にて当該分野に係る英文所見(Summary Report)を作成し、相手国関係技術協力窓口機関及び帰国研修員所属機関へ提出する。
- ⑤ 上記作業を通して、帰国後当該研修コースに対する質的改善のための提言を行う。

2. 団員構成

- ・ 団長、総括国際協力事業団東京国際研修センター

Team Leader 所長 武井 秀雄

Hideo TAKEI

Managing Director,

Tokyo International Centre,

Japan International Cooperation Agency

- ・ 技術指導 運輸省航海訓練所

Technical 教授 八木 健之

Instructor Takeshi YAGI

Senior Professor, Engineering,

Institute for Sea Training,

Ministry of Transport

- ・ 技術指導 財団法人海事国際協力センター

Technical 海務部審議役 和田 俊夫

Instructor Toshio WADA

Senior Advisor,

Marine Department,

The Maritime International Cooperation Center of Japan

3. 調査日程・主要面会者

1) 調査日程

8月15日(土)		東京→フランクフルト (LH711 14:00→18:55) 泊：フランクフルト・シェラトンホテル
8月16日(日)		フランクフルト→カイロ (LH652 14:10→19:15) 泊：ラムセスヒルトンホテル(カイロ)
8月17日(月)	AM	エジプトJICA事務所表敬、日程打合せ JICA Egypt Office 在「エジプト」日本大使館表敬 Embassy of Japan
	PM	外務省文化・技術協力局長表敬 Ministry of Foreign Affairs 泊：ラムセスヒルトンホテル(カイロ)
8月18日(火)	AM	イスマイリアへ移動(車両) Move to Ismailia by car スエズ運河庁表敬・意見交換、帰国研修員上司及び帰国研修員面談 Suez Canal Authority スエズ運河庁関連施設見学
	PM	スエズ運河庁主催懇親会(昼食) カイロへ移動(車両) Move to Cairo 泊：ラムセスヒルトンホテル(カイロ)
8月19日(水)	AM	アレキサンドリアへ移動(車両) Move to Alexandria by car 海運省表敬・意見交換、帰国研修員上司及び帰国研修員面談 Ministry of Maritime Transport
	PM	アラブ海運大学校表敬・意見交換 帰国研修員上司及び帰国研修員面談 Ministry of Maritime Transport 泊：プラザホテル(アレキサンドリア)
8月20日(木)	AM	調査団主催セミナー開催(於：海運省会議室) (セミナータイトル：Recent Development on Maritime Educational and Training System in Japan) アレキサンドリア港湾庁表敬・意見交換、 帰国研修員上司及び帰国研修員面談 Alexandria Port
	PM	調査団主催帰国研修員及び関係者懇親会 Friendship Party Hosted by the Team カイロへ移動(車両) Move to Cairo 泊：ラムセスヒルトンホテル(カイロ)
8月21日(金)		DAY OFF 泊：ラムセスヒルトンホテル(カイロ)
8月22日(土)		カイロ→アムステルダム (KL562 07:45→11:35) アムステルダム→ (KL563 23:20→)

8月23日(日)		→ダルエスサラーム →09:20) 泊：キリマンジャロホテル(ダルエスサラーム)
8月24日(月)	AM	タンザニアJICA事務所表敬、日程打合せ JICA Tanzania Office 外務省(連合共和国)表敬・意見交換 Ministry of Foreign Affairs 通信・運輸省(連合共和国)表敬・意見交換 Ministry of Communications and Transport in Dar-es-Salaam
	PM	在「タンザニア」日本大使館表敬 Embassy of Japan 泊：キリマンジャロホテル(ダルエスサラーム)
8月25日(火)	AM	ザンジバルへ移動(船) Move to Zanzibar by Ship 通信・運輸省(ザンジバル)表敬・意見交換、 帰国研修員上司及び帰国研修員面談 Ministry of Communications and Transport in Zanzibar
	PM	タンザニア労働組合機構表敬・意見交換、 帰国研修員上司及び帰国研修員面談 Organization of Tanzania Trade Union 泊：プワワニホテル(ザンジバル)
8月26日(水)	AM	ザンジバル海運公社表敬・意見交換、 帰国研修員上司及び帰国研修員面談 Shipping Corporation of Zanzibar
	PM	ダルエスサラームへ移動(船) Move to Dar-es-Salaam by ship 泊：キリマンジャロホテル(ダルエスサラーム)
8月27日(木)	AM	タンザニア港湾庁表敬・意見交換、 帰国研修員上司及び帰国研修員面談 Tanzania Harbours Authority タンザニア沿岸海運汽船表敬・意見交換、 帰国研修員上司及び帰国研修員面談 Tanzania Coastal Shipping Line ダルエスサラーム海運学校表敬・意見交換 Dar-es-Salaam Maritime Institute
	PM	セミナー準備 泊：キリマンジャロホテル(ダルエスサラーム)
8月28日(金)	AM	調査団主催セミナー開催(於：ニューアフリカホテル) (セミナータイトル：Recent Development on Maritime Educational and Training System in Japan)
	PM	調査団主催帰国研修員及び関係者懇親会 Friendship Party Hosted by the Team 泊：キリマンジャロホテル(ダルエスサラーム)
8月29日(土)		ダルエスサラーム→ロンドン (BA068 07:40→16:50)
8月30日(日)		ロンドン→ (BA007 16:05→)
8月31日(月)		→東京 →11:55)

2) 主要面会者

イ. エジプト国にて

(イ) 日本側

- 1) 在「エジプト」日本大使館
渡辺 泰造 特命全権大使
小林 厚司 一等書記官
- 2) JICAエジプト事務所
岩口 健二 所長
小林 尚行 所員

(ロ) エジプト側

- 1) 外務省 (Ministry of Foreign Affairs)
Mr. Sami
Ambassadar, Director of Cultural & Technical Cooperation Dept.
- 2) スエズ運河庁 (Sues Canal Authority:SCA)
Mr. Adel Abdel-Kadel Zaki
Deputy Director, Organization & Training Dept.
- 3) 海運省 (Ministry of Maritime Transport:MOMT)
Mr. Hani
Undersecretary General
Mr. El Fayed Abdou Morsy
General Director of Administration & Training
- 4) アラブ海運大学校 (Arab Maritime Transport Academy:AMTA)
Dr. Gamal A. Mokhter
President
Dr. Rafat Sakis
Deputy Dean
Dr. Eng. Lofty, M. Aly
Chairman, Dept. of Marine Engineering
- 5) アレキサンドリア港湾庁 (Alexandria Port Authority:APA)
General Ahmed Said Hemida
Chairman

6) 帰国研修員 (以下氏名、参加年次、現職)

MR. HANY HASSAN MD. EL ISKANDARANY (1978)

PUBLIC RELATION SECTION MANAGER, ADMINISTRATION DEPT.,
ALEXANDRIA NATIONAL IRON & STEEL CO.

MS. RAKIA IBRAHIM SAKR (1979)

MANAGER, ORGANIZATION DEPT.,
EGYPTIAN NAVIGATION CO. (ENC)

MR. MOHAMED NABIL MAHMOUD EL SOBKY (1981)

LECTURER, MARINE ENGINEERING DPT.,
COLLEGE OF ENGINEERING
STUDIES & TECHNOLOGY.
ARAB MARITIME TRANSPORT ACADEMY

MR. AHMED ALY SALEM REZK (1984)

CHIEF OF SEAMAN BOOK SECTOR. MARINE INSPECTION DIV.,
PORT & LIGHTHOUSES ADMINISTRATION

MR. IBRAHIM MOHAMED ABDALLA SHARARA (1986)

LAWYER IN MARITIME INSPECTION DEPT., INSPECTION SEC.,
PORTS & LIGHTHOUSES ADMINISTRATION

MR. EL-SAYED ADEL ABDEL-KADER (1987)

HEAD OF CENTRAL TRAINING DEPT., SUEZ CANAL AUTHORITY

MR. MAGDY MOUSTAFA MOHAMED (1989)

SYSTEM ANALYST, INFORMATION CENTER DEPT.,
PORTS & LIGHTHOUSES ADMINISTRATION

MR. SAMIR FAHMY MATTA (1990)

REGISTER OF SHIPS, MARINE INSPECTION DIV.,
PORT & LIGHTHOUSES ADMINISTRATION

MR. EL SAYED M. AMIN ABO YOUSSEF (1991)

SECOND SPECIALIST, SEAMEN DEPT.,
EGYPTIAN NAVIGATION CO.

イ. タンザニア国にて

(イ) 日本側

- 1) 在「タンザニア」日本大使館
永井 重信 特命全権大使
伊藤 敏 一等書記官
- 2) JICAタンザニア事務所
雲見 昌弘 所長
阿部 幸生 所員

(ロ) タンザニア側

- 1) 外務省 (Ministry of Foreign Affairs:MOFA)
Mr. George G. Mwan Jabal
Director for Asia and Australasia
- 2) 通信・運輸省(連合共和国)
(Ministry of Communications and Transport:MOCT)
Mr. Maregeri
Director of Personnel
Mr. Ole-Kambainei
Director of Shipping
- 3) 通信・運輸省(ザンジバル)
(Ministry of Communications and Transport, Zanzibar:MOCTZ)
Mr. Maisara
Principal Secretary
- 4) タンザニア労働組合機構 (Organization of Tanzania Trade Unions:OTTU)
Mr. A. H. Change
- 5) ザンジバル海運公社 (Shipping Corporation of Zanzibar:SCZ)
Mr. Haji Suleman Haji
Acting General Manager
- 6) タンザニア港湾庁 (Tanzania Harbours Authority:THA)
Mr. Mwakasisi
Director of Manpower and Administration

7) タンザニア沿岸海運汽船 (Tanzania Coastal Shipping Line:TCSL)

Mr. Luvati

General Manager

8) ダルエスサラーム海運学校

(DES Maritime Institute:DMI-校長ノルウェー派遣・英国籍)

4. 帰国研修員(以下氏名、参加年次、現職)

MR. RAMADHAN SALEH HUSSEIN (1979)

PORT OFFICER, PORT & MARINE DEPT.,

MINISTRY OF COMMUNICATION

MR. ABRAHMAN HASSAN CHANDE (1981)

GENERAL SECRETARY, SEAMEN UNION,

ORGANIZATION OF TANZANIA SEAMEN UNION, ZANZIBAR

MR. ALI MKOPI SALIM (1984)

TRAINING OFFICER, ADMINISTRATIVE DEPT.,

THE SHIPPING CORPORATION OF ZANZIBAR

MR. SULEIMAN MUSSA AMEIR (1987)

ASSIST. ADMINISTRATIVE MANAGER,

THE SHIPPING CORPORATION OF ZANZIBAR

MR. OTHMAN ALI OTHMAN (1989)

ASSIST. BRANCH MANAGER. DAR ES SALAAM,

THE SHIPPING CORPORATION OF ZANZIBAR

MS. SIBILINA ELEZA ALLEN TEMU (1990)

ACTING ADMINISTRATIVE MANAGER, ADMINISTRATION DEPT.,

TANZANIA COASTAL SHIPPING LINE LIMITED

MR. CLAUDIO MICHAEL MBENA (1991)

MANPOWER DEVELOPMENT MANAGER,

MANPOWER DEVELOPMENT & ADMINISTRATION,

TANZANIA HARBOURS AUTHORITY

II. フォローアップチーム調査内容

1. 調査方法及び調査 T/R

(1) 調査方法

フォローアップチーム出発前に、以下の調査 T/R にしたがって、JICAエジプト事務所及びタンザニア事務所を通じて、下記技術協力関係窓口機関、帰国研修員上司及び帰国研修員へ Questionnaire (質問票－添付資料：V-3) を送付し、面接前に現地で回収し、この回答も加味しながら、以下の調査 T/R 内容にそって面談・現地見学・質問票による調査を行った。

なお、各国における質問票送付は以下の通り。

・ エジプト国

- 1) 帰国研修員 (添付資料V-2: 別添名簿の通り): 計20名
- 2) 帰国研修員所属機関: ・ SEAMAN TRAINING CENTER OF
ARAB MARITIME TRANSPORT ACADEMY
・ EGYPTIAN NAVIGATION COMPANY
・ PORTS & LIGHT HOUSES ADMINISTRATION
・ MINISTRY OF MARITIME TRANSPORT
・ SUEZ CANAL AUTHORITY 計5ヶ所
- 3) 関係技術協力窓口機関: ・ 外務省技術協力窓口機関
・ 運輸省技術協力窓口機関 計2ヶ所

・ タンザニア国

- 1) 帰国研修員 (添付資料V-2: 別添名簿の通り): 計13名
- 2) 帰国研修員所属機関: ・ TANZANIA HARBOURS AUTHORITY
・ TANZANIA COASTAL SHIPPING LINE LTD.
・ SHPPING CORPORATION OF ZANZIBAR
・ MINISTRY OF COMMUNICATION 計4ヶ所
- 3) 関係技術協力窓口機関: ・ 外務省技術協力窓口機関
・ 運輸省技術協力窓口機関 計2ヶ所

(2)

小帯 船員研修員フォローアップ調査 I / R (船員管理システム)

調査内容	調査項目 (現地での)	既知事項による事前調査	調査対象	調査方法
1. 当該分野の現状と問題点及びニーズ把握	船員に関わる諸機関 (関連省庁、教育機関・船社) とその役割・課題 (当該国システムの前提状況・需要等を含めて)	C/R分析	当該分野関係機関 船国研修員所属先	面接 現場視察 意見交換 (於ては)
	当該分野のシステム成熟水準・技術水準 (日本との比較における) とその問題点	C/R分析	当該分野関係機関 船国研修員所属先	
	当該国当該分野における将来計画 (最も関心・力を入れていること) とその問題点	C/R分析	当該分野関係機関 船国研修員所属先	
	上記計画枠組みの中での人材育成計画とその問題点 (省庁の行政担当者あるいは訓練所の担当者等をどのように開発・配置するか等)	C/R分析	当該分野関係機関 船国研修員所属先	
	総括 (視書) としての到達目標設定の合理性 (当該コース到達目標と当該国の現状・ニーズとの関係・妥当性)	評価会要旨、既派遣 F/U 報告書	技協窓口 当該分野関係機関 船国研修員所属先	
2. 日本での研修の成果等	当該コースへの要望 (当該分野における既存コースの研修項目の他に必要な知識・情報)	評価会要旨、既派遣 F/U 報告書	技協窓口 当該分野関係機関 船国研修員所属先	質問表 意見交換 (於ては)
	当該コースへの評価・適用度測定 - 日本で得た知識・情報のなかで、どれが有益で、それをどのように活用・応用するか - 日本で得た知識・情報を、活用する時に、何が難書になり、それをどのように克服したか/どうして克服できなかったか - 既存コースを改善するための提言	評価会要旨、既派遣 F/U 報告書	船国研修員	
	関係機関の概要	既派遣 F/U 報告書	船国研修員所属先	
	全般的な選考プロセス/選拔基準・方法/所要期間	既派遣 F/U 報告書	技協窓口 当該分野関係機関 船国研修員所属先	
3. 当該国の当該分野における関係機関の概要及び船国研修員の動向調査	G. I. 配布先 (どのように G. I. を得たか)	---	船国研修員	質問表
	研修時の職務/職位と現在のそれ (定着度)	---	船国研修員	
	他国で行われている当該分野の研修の実情と日本のそれとの比較 (カリキュラム)	---	技協窓口 当該分野関係機関 船国研修員所属先	
		---	船国研修員	

1. 船員教育制度の現状と課題

(1) 船員教育機関の概況

定員、入学資格、教員の数、カリキュラム、卒後取得できる資格、卒後の就職状況、施設概要

(2) その他の船員教育

第3国の研修、企業内訓練

(3) 当該国の船員教育の課題と将来計画

(4) 所見(日本との比較における教育レベル・システム成熟度に鑑みて)

2. 船員行政システムの現状と課題

(1) 船員行政

① 概要

② 乗船基準

③ 資格制度

④ 課題と将来計画

⑤ 所見(日本との比較に置ける教育レベル・システム成熟度に鑑みて)

(2) 船員の労働管理

① 現状(労働管理及び乗船基準等諸制度との関連における)

a. 内航

b. 外航

② 賃金及び組合活動の現状

③ 課題と将来計画

④ 所見(日本との比較における教育レベル・システム成熟度に鑑みて)

2. 調査国における当該技術の現状(各国別)

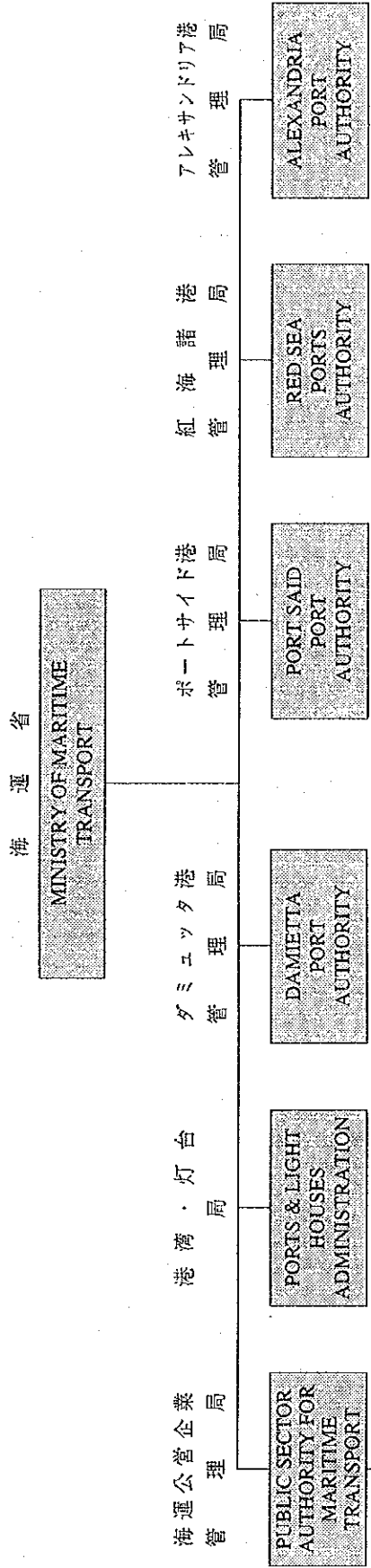
(1) エジプト国

A. 海事行政システムの現状

エジプト国における海事行政は海運省が所掌している。同省の組織は図-1に示すとおり、6局で構成され、そのうちの4局はそれぞれアレキサンドリア、ポートサイド、ダミュッタ及び紅海諸港の管理局であり、他の海運公営企業管理局は国営の海運関連企業(船会社、代理店、荷役、倉庫、コンテナ取扱、造船・修理業等)を監督し、港湾・灯台局が船員行政を担当し、船員の登録、船員手帳の発給、海技資格免許、海難調査労使間の雇用契約、船員の保険、医療等に関する業務ならびに灯台、港湾に関する管理業務を行っている。但し船員の労働行政は海運省とは別に労働省が全国の労働関係業務を一元的に所掌している。また船員教育行政を所掌する部局はない。これは制度上エジプト政府が直接運営監督する船員教育機関が存在しないためである。アレキサンドリアに設置されているアラブ海運大学校(Arab Maritime Transport Academy以下 AMTA)はアラブ同盟国の拠出金で設立された国際組織であり、エジプトのアラブリーグ離脱後もその国際的地位を維持しているがこの間財政的にはエジプト政府の支援に頼っており、運輸通信大臣がAMTAの運営理事会の議長をつとめるなどAMTAとエジプト政府との関係は密接である。

海 運 省 組 織 図

THE ORGANIZATIONAL STRUCTURE OF
THE MINISTRY OF MARITIME TRANSPORT



1. The Egyptian Navigation Co.
2. The Egyptian Co. for Maritime Transport (MARTRAN'S)
3. Alexandria Shipping Agencies Co.
4. Canal Shipping Agencies Co.
5. The United Arab Stevedoring Co.
6. The Canal Stevedoring Co.
7. The Egyptian Warehouses Co.
8. Alexandria Container Handling Co.
9. Port Said Container Handling Co.
10. Damietta Container handling Co.
11. The Egyptian Co. for Marine Works and Provisions
12. Suez Stevedoring Co.
13. The Egyptian Repair and Shipbuilding Co.

B. 船員教育機関の現況

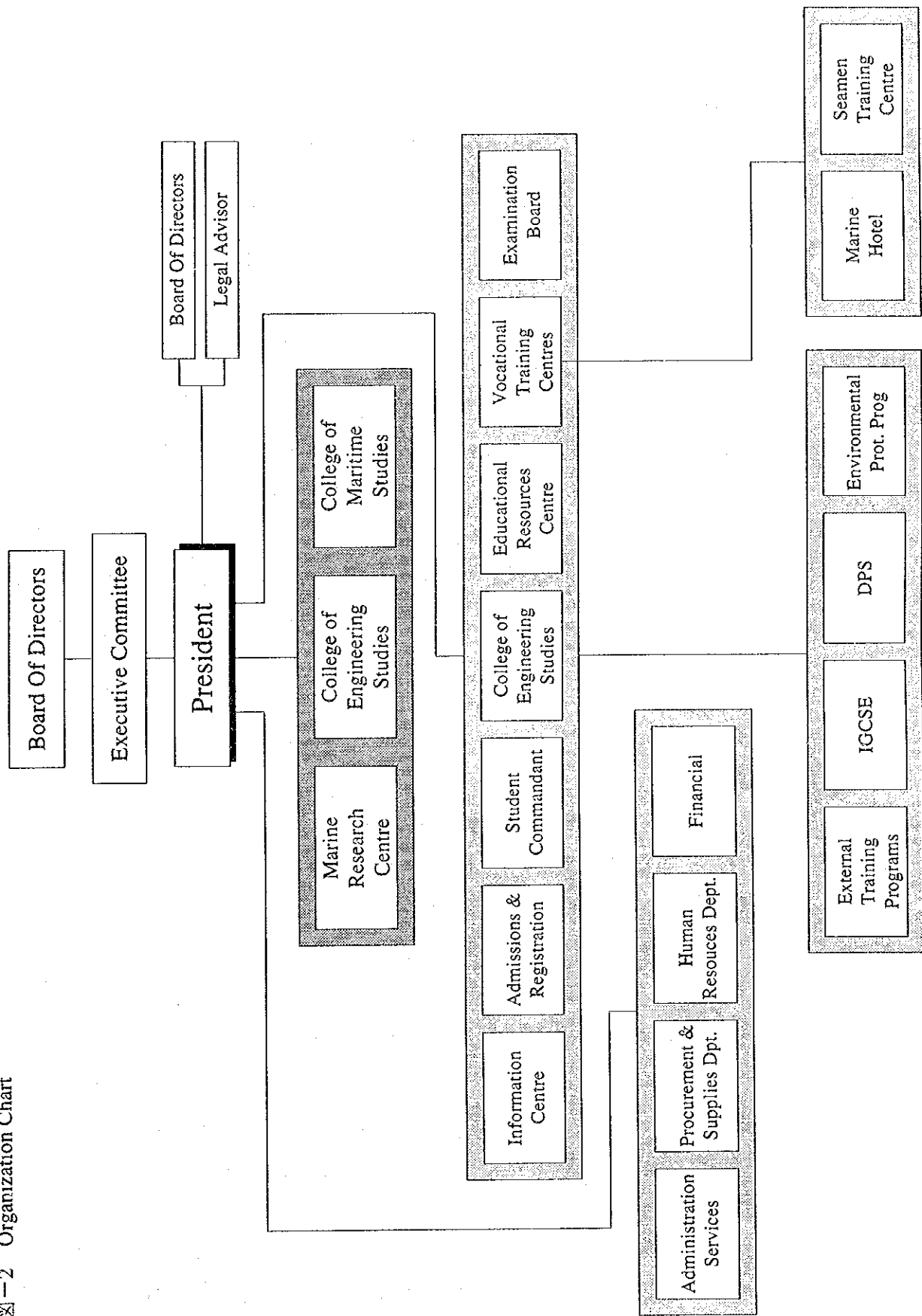
エジプト国には唯一の海事総合教育機関である AMTA がアレキサンドリア市内に設置されている。本校は1972年にアラブ連盟の決議によって、アラブ諸国海運の自立と振興を目標として必要な人材育成するために設立され、以降外航船舶の乗員訓練を中心に海運経営、港湾管理など広範な関連分野の人材を育成している。

創立以来所謂アラブボイコットと言われるエジプトとアラブ連盟間の不安定な外交関係の影響を受けて、財政基盤、教官・学生の出身国、キャンパス整備計画等に変動を余儀なくされた時期もあったが、エジプト政府の強力な支援等によって困難を克服して拡充発展を続け既に約3万人の諸コース履修者を世に送り出している。

創設以来20年を経た現在、中東アフリカ地域における数少ない海技資格免状発給国の一つであるエジプトに所在し、海技試験官を校内スタッフから送出している本校はその規模と内容において世界屈指の海事教育機関であり今後も友好にその機能を果してゆくものと思われる。

本校の組織は1991年10月に図-2のごとく改編されて運営されている。全教育訓練は海事大学校 (College of Maritime Studies)、機関大学校 (College of Engineering Studies) 及び職業訓練センター (Vocational Training Centres) で行われている。

☒ -2 Organization Chart



1) 海事大学校

本大学校には次の学部がある。

① 航海学部

外航船舶の航海科職員を養成する学部であり、普通中学校(就学年数12年)を卒業した新人を教育する本科課程(Basic Studies:在学期間2年間)とこれを卒業後所定の海上実務を経て順次2、1等航海士及び船長の資格免状を取得させる海技資格講習課程ならびに本科修了者に更に専門知識を教授して学士号を取得させる学士課程がある。

② 海運学部

海運関連産業の人材を養成する学部で、海運経営、保険及び海法等を教授する。1年間の本科課程、これに加えて2乃至4年間で専門知識を修得させる学士課程等がある。

③ 教養学部

航海、機関及び電子工学部等の専門教育に必要な教養・基礎知識を教授する学部である。

2) 機関技術大学校

本大学校には次の学部がある。

① 機関学部

外航船舶の機関科職員を養成する学部であり、前記航海学部と同様に、本科、海技資格講習及び学士の各課程がある。

② 電子・コンピューター工学部

外航船舶の通信士、電子関係機器の保守・操作管理を行う電気士を養成する学部であり、本科、電気士及び学士の各課程がある。

③ その他に電気制御工学部及び基礎・応用科学部がある。

3) 職業訓練センター

本訓練センターには次の2つのセンターがある。

① 海員養成センター

船舶に乗組む部員を養成する部門で、甲板科、機関科、電気科の3コースに分かれ、20週間で新人教育を実施しておりこの期間に2週間の練習船実習が組込まれている。

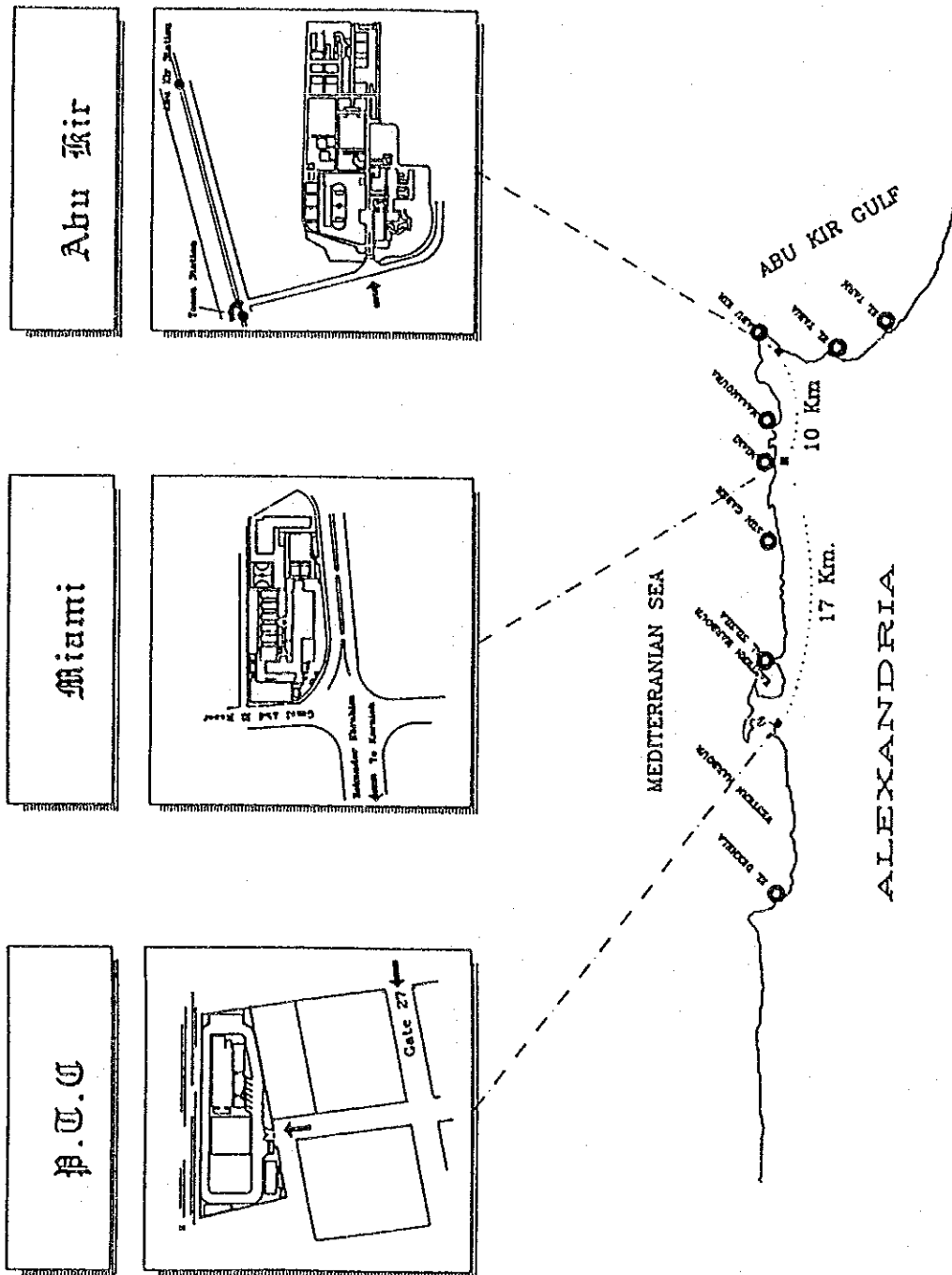
また既成部員の再教育を実施する12週間のコースも併設している。

② 司厨部員養成センター

船舶に乗組む司厨部員を養成する部門で、給食サービスと調理の2コースに分かれている。養成期間は1年でその間にホテルでの実習及び練習船実習が組込まれている。

- 1) AMTAのサイト・施設の概要を図3-1, 2, 3, 4に、
- 2) AMTAの主要教育施設・機材を表-1に、
- 3) AMTAのコース別カリキュラムを表-2に示す。

図-3-1 AMTAのアレキサンドリアにおけるサイト



The Academy's Sites in Alexandria

図-3-2 AMTAMIAミ校施設

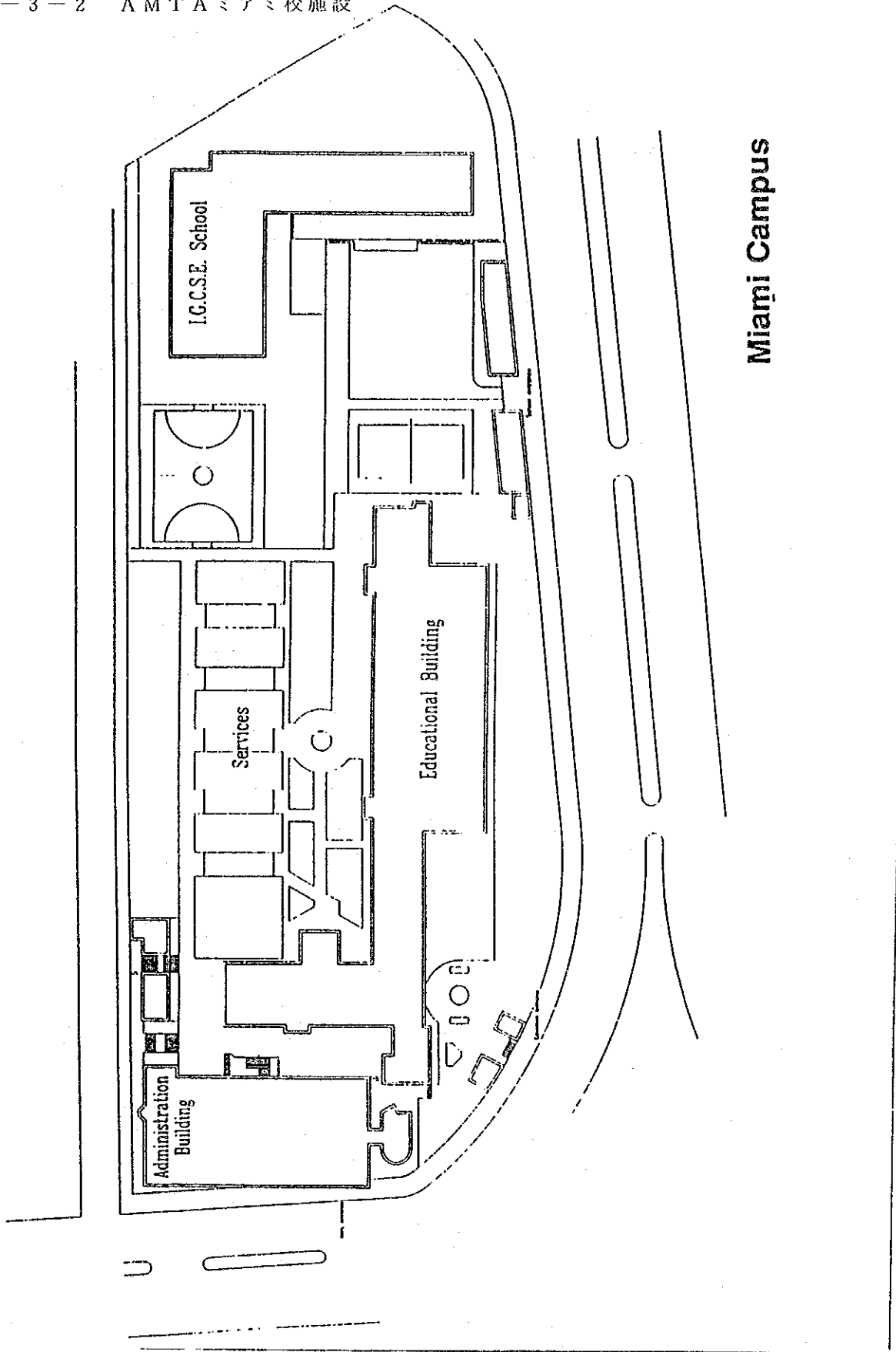


図-3-3 AMTAアブキール校施設

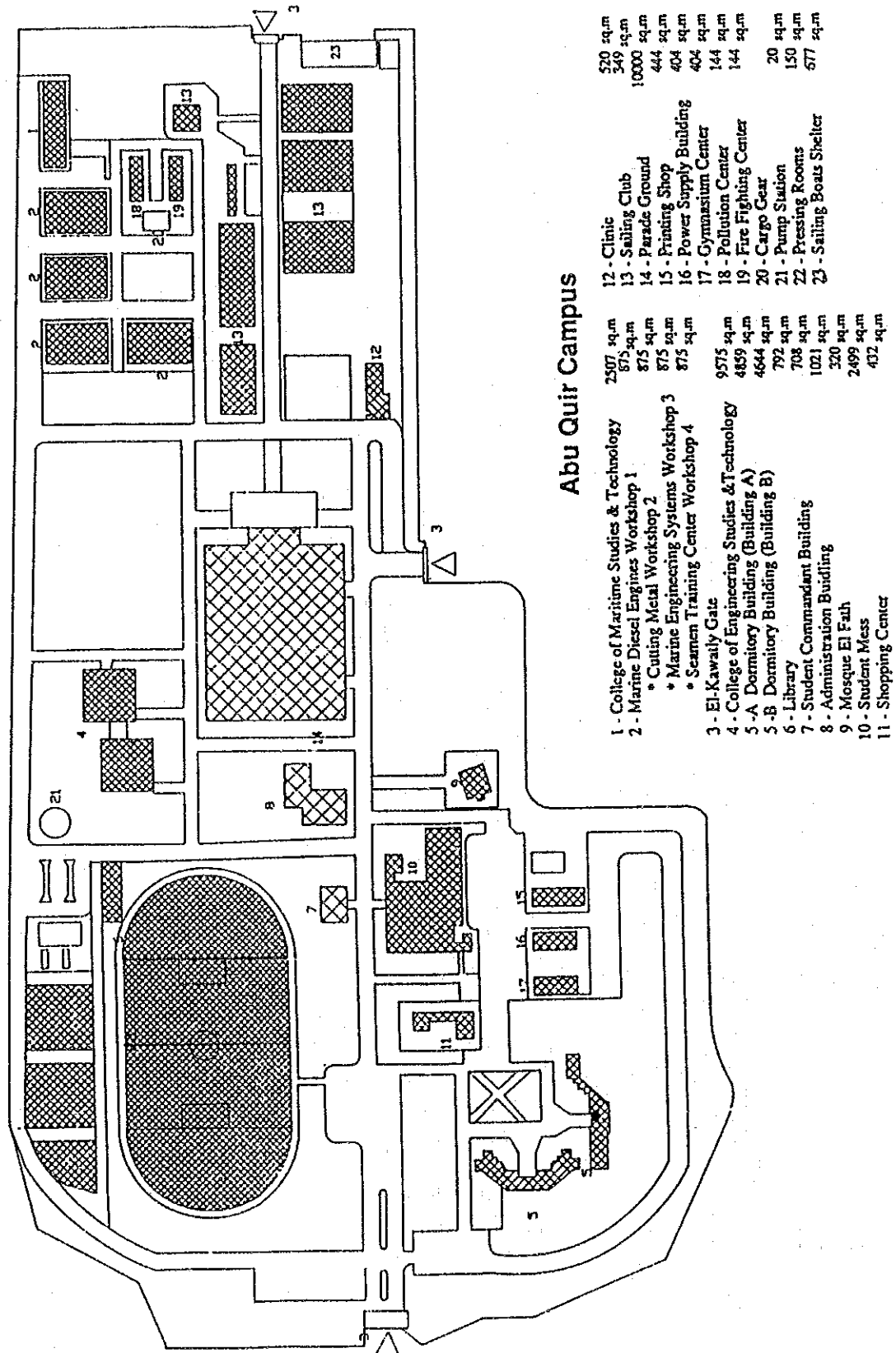
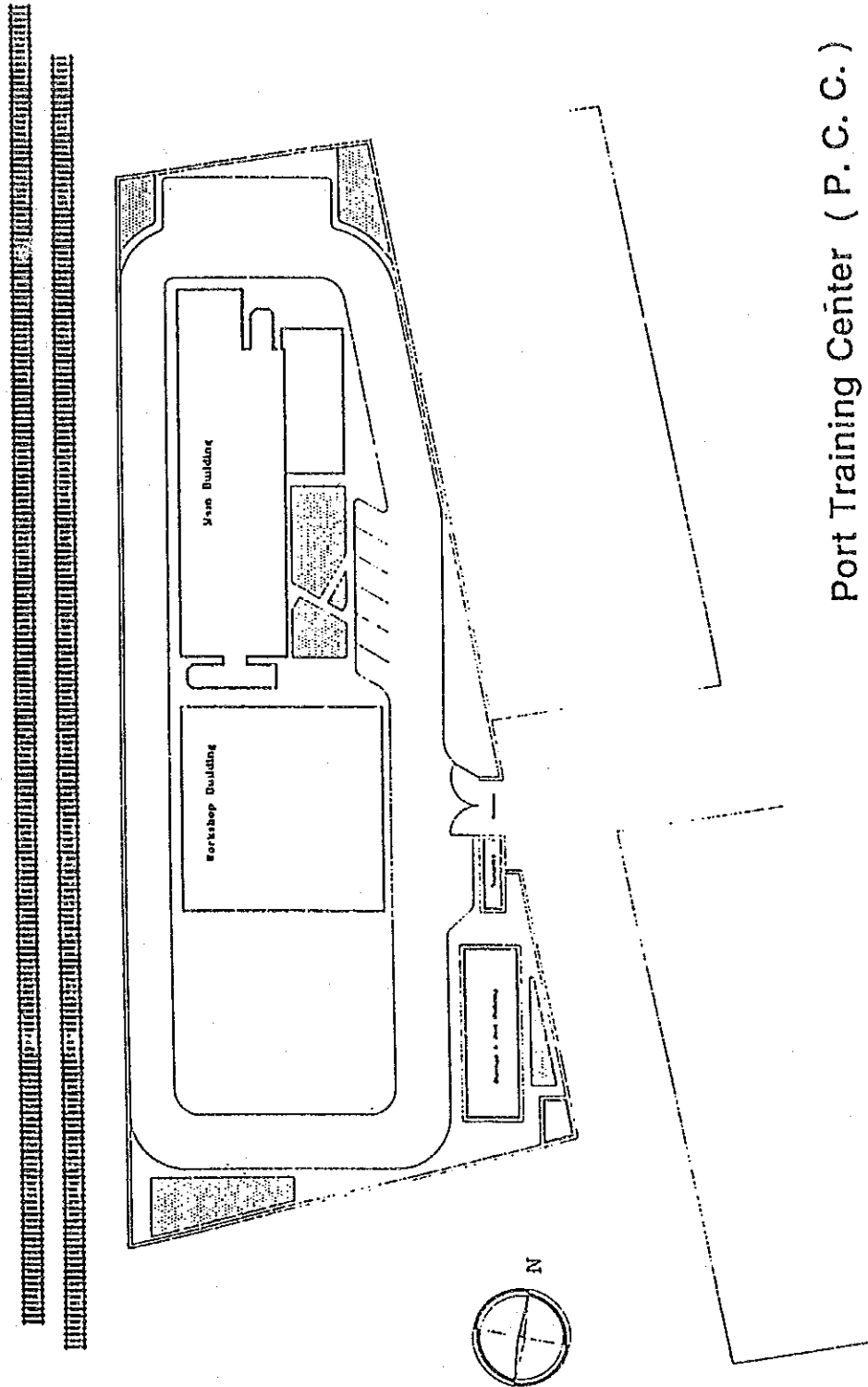


図-3-4 ポートトレーニングセンター施設



Port Training Center (P. C. C.)

表-1 アラブ海運大学校の施設並びに主要機材

Training Equipment and Facilities
Available at AMTA

7.1 *Engineering Studies Department*

- 7.1.1 Automatic Control Lab
- 7.1.2 Hydraulics Lab
- 7.1.3 Marine Engineering Workshop
- 7.1.4 Electro-Technology Workshop
- 7.1.5 Diesel Engine Workshop
- 7.1.6 Metal Cutting Workshop
- 7.1.7 applied Mechanics Lab (Vibration)

7.2 *Electronics and Computer Studies Department*

- 7.2.1 Radar Lab
- 7.2.2 Electronis Lab
- 7.2.3 Microwave Lab
- 7.2.4 Morse Labs
- 7.2.5 PC Computer Lab
- 7.2.6 Communcations Lab
- 7.2.7 Wang Computer Center

7.3 *Nautical Studies Department*

- 7.3.1 Navigation Aids Lab
- 7.3.2 Tanker Operation Simulator
- 7.3.3 Radar Simulator-ARPA Lab
- 7.3.4 Seaman Ship Workshop
- 7.3.5 The Planetarium

7.4 *Academic Studies Department*

- 7.4.1 Language Lab
- 7.4.2 Physics Lab
- 7.4.3 Chemistry Lab
- 7.4.4 Marine Pollution Lab

7.5 *Seamens' Training Center*

- 7.5.1 Wheel House Simulation Room
- 7.5.2 Navigation Aids Room
- 7.5.3 Ships' Models Room
- 7.5.4 Meterological & Signalling Lab
- 7.5.5 Seamanship Practice Room
- 7.5.6 Marine Diesel Engines and Auxiliaries Work Shop
- 7.5.7 Electrical Technology Lab
- 7.5.8 Electrical Technology Workshop
- 7.5.9 Cargo Winch System
- 7.5.10 Radar Training Boat
- 7.5.11 Training Life Boat

N. B. The following are (details & equipment) available in each or the above mentioned labs
(Classified according to departments).

表-2 AMTAコース カリキュラム

Department of Nautical Studies

Educational Objectives

The Department of Nautical Studies caters for the education, training and upgrading of students through the development of their knowledge, attitudes, and skills in order to enable them to work as deck officers capable of holding jobs at different levels of their speciality in the maritime field and in accordance with the international standards.

Studies in the Department are conducted according to the following programs:

Basic Studies

Offered to students who have completed their general secondary school education (Science/Mathematics) and leads to the Certificate of Completion of Basic Nautical Studies as well as to the Third Mate Certificate of Competency after passing the competency examinations and after attending the mandatory courses related to safety.

This program of study comprises the following instructional and training phases:

Phase (I)

A phase of study at the Academy on internal residence basis for '4' consecutive semesters with a total minimum duration of 2 years and a maximum limit of 4 years.

The following is the curriculum of this phase of study:

First Year - Common Semester

Course No.	Course Title	Credit Hours
A 131	English Language (1)	3
A 121	Mathematics (1)	3
A 111	Physics (1)	4
E 181	Introduction to Engineering	2
E 111	Engineering Drawing (1)	2
N 111	Seamanship (1)	3
T 111	Introduction to Maritime Transport	2
C 120	Introduction to Computers	1
P 101	Physical Education (1)	1/2
L 101	Leadership (1)	1/2
	Total	21

Two mandatory short courses are to be attended during this common semester.

Course No.	Course Title	Hours
N 103	Fire.Fighting	30
N 104	Survival at Sea	30

First Year - Second Semester

Course No.	Course Title	Credit Hours
A 132N	English Language (2)	3
A 122N	Mathematics (2)	3
A 112N	Physics (2)	3
N 112	Seamanship (2)	3
N 131	Coastal Navigation (1)	3
N 121	Ship Construction and Stability	3
T 121	Economic Geography	2
P 102	Physical Education (2)	1/2
L 102	Leadership (2)	1/2
Total		21

After this second semester, students participate in a short (2 weeks) training cruise on board the Academy's training vessel, for the successful completion of which students get 2 credits.

Second Year - Third Semester

Course No.	Course Title	Credit Hours
A 233N	English Language (3)	3
C 275N	Basic Electronics	3
N 213	Seamanship (3)	3
N 239	Coastal Navigation (2)	3
N 241	Cargo Handling	2
N 281	Celestial Navigation (1)	3
N 271	Navigational Aids and Instruments (1)	3
P 203	Physical Education (3)	1/2
L 203	Leadership (3)	1/2
Total		21

Second Year - Fourth Semester

Course NO.	Course Title	Credit Hours
A 234N	English Language (4)	3
E 284N	Elements of Marine Eng.	2
N 262	Celestial Navigation (2)	2
N 272	Navigational Aids and Instruments (2)	3
N 251	Communications and Signaling	4
N 231	Meteorology and Oceanography (1)	3
N 291	Introduction to Maritime Law	3
N 233	Coastal Navigation (3)	2
P 234	Physical Education (4)	1/2
L 204	Leadership (4)	1/2
Total		23

Phase (II)

A Sea-training period of a minimum duration of 12 months divided into two periods:

The First Period

A guided sea-training period on board the Academy's training vessel for the duration of 4 months (evaluated as 6 months of actual sea-training). This period comprises a total of 710 Hrs. of training covering the following:

150 Hrs	Seamanship
300 Hrs	Bridge Operations
50 Hrs	Navigation and Chartwork
30 Hrs	Cargo-Handling
10 Hrs	Engine Room Operations
20 Hrs	Stability Calculations
50 Hrs	Fire-fighting and Survival at Sea Operations
100 Hrs	Navigational Aids and Instruments

This period of sea -training is carried out under the full supervision, guidance and evaluation of the lecturers of the Sea-Training Sector.

The second Period

An actual sea-service period on board foreign-going ships of 6 months duration. During this period the cadet performs certain predefined assignments as stipulated in the assignment book of long sea-training, and is required to submit periodic reports for assessment and follow-up.

At the end of phase (II), the cadet would be eligible either to sit directly for the examinations of Third Mate Certificate of Competency or proceed for another extra 6 months sea service, after which he

must attend a preparatory period Phase (III) before sitting for the Second Mate Competency Certificate. This preparatory period is conducted at the Academy on external residence basis, and comprises the completion and amalgamation of the previous theoretical and practical studies.

Competency Certificates Studies

The Department conducts courses for each of the following certificates of competency according to a scheduled calendar:

- * Third Mate
- * Second Mate
- * First Mate
- * Master

The following are the courses conducted for each certificate:

Third Mate Certificate of Competency

Course No.	Course Title	Hours
A 617N	Applied Science	99
A 606N	Mathematics	108
A 635N	English Language	72
N 615	Seamanship	54
N 663	Practical Navigation	54
N 614	General Ship Knowledge	90
N 634	Chart Work	63
N 652	Communications and Signaling	54
N 682	Meteorology	54

Mandatory Short Courses

Course No.	Course Title	Hours
N 103	Fire-Fighting	30
N 104	Survival at Sea	30
N 801	First Aid	16
N 673	Electronic Navigation Systems	150
N 602	Radio Telephony	16

Second Mate Certificate of Competency

Course No.	Course Title	Hours
N 615	Seamanship	54
N 664	Principles of Navigation	90

First Mate Certificate of Competency

Course No.	Course Title	Hours
N 716	Seamanship	54
N 722	Ship Construction and Stability	108
N 735	Coastal Navigation	54
N 742	Shipboard Operations	72
N 765	Offshore Navigation	90
N 753	Communications and Signaling	45
N 783	Meteorology	72
N 792	Commercial Knowledge and Maritime Law	72

Mandatory Courses

Course No.	Course Title	Hours
N 702	Medical Studies	20
N 774	Control Systems (NCS)	60

Master Certificate of Competency

Course No.	Course Title	Hours
N 817	Seamanship	72
N 823	Ship Construction and Stability	128
N 866	Navigation	54
N 875	Navigational Aids and Instruments	162
N 893	Commercial Knowledge and Maritime Law	108
E 883	Marine Engineering Knowledge and Control Systems	80

Special Courses

The Department also offers the following specialized optional courses:

Course No.	Course Title	Hours
N 403	Tanker Operation	134
N 044	Transport of LP	34
N 045	Inert Gas Systems	34
N 046	Tanker Calculations for Operation	34
N 047	Cargo and Stress Calculations	34

Bachelor Degree in Maritime Transport

Cadets who fulfill the admission requirements for the Bachelor degree can continue their degree courses in the Department of Maritime Studies. Curriculum of the degree courses are given in the Maritime Studies Section.

Department of Marine Engineering Studies

Educational Objectives

The Department caters for the education, training and upgrading of students through the development of their knowledge, attitudes and skills in order to enable them to work as marine engineers in compliance with the international standards required to hold different posts of their speciality in the maritime field.

The studies in the Department are held in accordance with the following programs:

Basic Studies

Offered to students who have completed their general secondary school education (Maths./Science), and leads to the certificate of Completion of Marine Engineering Basic Studies, as well as the Third Marine Engineer Certificate of Competency, after passing the competency examinations and attending the mandatory short courses related to safety.

This program of study comprises the following instructional and training phases

Phase (I)

A phase of study at the Academy, on internal residence basis, for 5 consecutive semesters with a minimum duration of 21/2 years and a maximum of 5 years.

The following is the curriculum of studies:

First Year. Common Semester

Course No.	Course Title	Credit Hours
A 131	English Language (1)	3
A 121	Mathematics (1)	3
A 111	Physics (1)	4
E 181	Introduction to Engineering	2
E 111	Engineering Drawing (1)	2
N 111	Seamanship (1)	3
T 111	Introduction to Maritime Transport	2
C 120	Introduction to Computers	1
P 101	Physical Education (1)	1/2
L 101	Leadership (1)	1/2
	Total	21

Two mandatory short courses are to be attended during this common semester. They are:

Course No.	Course Title	Hours
N 103	Fire Fighting	30
N 104	Survival at sea	30

First Year - Second Semester

Course No.	Course Title	Credit Hours
A 114E	Engineering Physics (2)	3
A 122E	Mathematics (2)	2
E 141	Strength of Materials (1)	3
E 151	Electrical Engineering (1)	4
E 112	Engineering Drawing (2)	2
E 131	Workshop Technology (1)	3
A 132	English Language (2)	3
P 102	Physical Education (2)	1/2
L 102	Leadership (2)	1/2
	Total	21

Second Year - Third Semester

Course No.	Course Title	Credit Hours
A 223E	Mathematics (3)	3
E 213	Applied Mechanics	3
E 221	Thermodynamics (1)	4
E 261	Marine Instrumentation	2
E 252	Power Electronics	1
E 214	Machine Drawing	2
E 232	Workshop Technology (2)	3
A 261E	Chemistry (1)	2
P 203	Physical Education (3)	1/2
L 203	Leadership (3)	1/2
	Total	21

Students also participate in a short training cruise on board the Academy's training vessel for a period of 2 weeks, for the successful completion of which the cadets get 2 credits.

Second Year - Fourth Semester

Course No.	Course Title	Credit Hours
E 222	Thermodynamics (2)	2
E 215	Machine Design (1)	3
E 216	Theory of Machines (1)	1
E 253	Electrical Technology (2)	3
E 262	Marine Automatic Control (1)	3
E 291	Steam Generators (1)	2
E 271	Internal Combustion Engines (1)	4
E 201	Naval Architecture and Ship Construction (1)	2
P 204	Physical Education (4)	1/2
L 204	Leadership (4)	1/2
	Total	21

Third Year - Fifth Semester

Course No.	Course Title	Credit Hours
E 342	Metallurgy	1
E 354	Electrical Technology (3)	1
E 363	Automatic Control Practice (2)	1
E 382	Marine Engineering Practice (1)	3
E 372	Internal Combustion Engines Practice (2)	2
E 392	Steam Power Plant	2
E 323	Hydraulics	2
E 383	Marine Systems (1)	3
P 305	Physical Education (5)	1/2
L 305	Leadership (5)	1/2
Total		16

The following mandatory short course has to be attended during this fifth semester:

Course No.	Course Title	Hours
N 601	First Aid	16

Phase (II)

A guided sea-training period, of 10 credits, on board the Academy's training vessel for a duration of 4 months (evaluated as 6 months of practical sea training), comprising a total of 710 hours of training in the following areas:

50 hrs	Training on fire-fighting and survival at sea operations;
300 hrs	Training on performing the duties and activities of watchkeeping engineer in the engine room;
60 hrs	Study of ships' systems and machinery;
200 hrs	Training on the trouble detection, maintenance and repair of mechanical equipment;
100 hrs	Training on the trouble detection, maintenance and repair of electrical equipment.

This period of sea training is carried out under the full supervision, guidance and evaluation of the lecturers of the Sea Training Sector.

At the end of this phase, the cadet would be eligible to sit for the examinations of Third Marine Engineer Certificate of Competency.

Upgrading Studies

The Department conducts courses for upgrading studies as stipulated in the Ministerial Decree No. 51/1983. The aim of these courses is to prepare the candidates to sit for examinations leading to the following certificates of competency:

- * Third Marine Engineer
- * Second Marine Engineer (Part A)
- * Second Marine Engineer (Part B)
- * Marine Chief Engineer (Part A)
- * Marine Chief Engineer (Part 9)

Upgrading courses are usually held twice a year for each certificate according to a scheduled calendar.

The following are the courses conducted for each certificate:

Third Marine Engineer Certificate

Course No.	Course Title	Hours
A 618E	Basic Science	90
E 686	Marine Engineering Knowledge	90
E 676	Internal Combustion Engines	72
E 656	Electrical Technology	45

Second Marine Engineer Certificate (Part A)

Course No.	Course Title	Hours
A 727	Mathematics	108
E 711	Applied Mechanics	108
E 726	Heat and Heat Engines	108
E 712	Engineering Drawing	108
A 733E	English Language	72

**Second Marine Engineer Certificate
(Part B)**

Course No.	Course Title	Hours
E 757	Electrotechnology and Electronics	126
E 705	Naval Architecture and Ship Construction	108
E 787	General Engineering Knowledge	108
E 777	Internal Combustion Engines	108
E 795	Steam Engines (alternative to E 777)	108
E 766	Marine Instrumentation and Automation (1)	36

**Marine Chief Engineer Certificate
(Part A)**

Course No.	Course Title	Hours
E 813	Applied Mechanics	108
E 827	Heat and Heat Engines	108
A 834E	English Language	72

**Marine Chief Engineer Certificate
(Part B)**

Course No.	Course Title	Hours
E 858	Electrotechnology and Electronics	126
E 806	Naval Architecture and Ship Construction	108
E 887	General Engineering Knowledge	180
E 896	Steam Engines (Alternative to E 878)	180
E 867	Marine Instrumentation and Automation (2)	36

Mandatory short courses for Marine Engineer Certificates of Competency are:

Course No.	Course Title	Hours
N 103	Fire-Fighting	30
N 104	Survival at sea	16
N 601	First Aid	16

Bachelor of Engineering Studies

This program leads to the Bachelor of Engineering Degree (B. Eng.) in Marine Engineering Technology. The program comprises 2 preparatory intensive courses, followed by 4 complementary semesters. The 10th semester extends by 6 to 8 weeks to finalize the 9. Eng. Project.

The following is the curriculum of the 9. Eng. Studies:

Fourth Year - Seventh Semester

Course No.	Course Title	Credit Hours
A 424	Engineering Mathematics (2)	3 3
A 462	Applied Chemistry	2
E 425	Heat Transfer	3
E 417	Theory of Machines (2)	11/2
A 416E	Applied Physics (3)	3
C 442E	Computer Programming (2)	2
E 444	Shipyards Technology	2
E 443	Strength of Materials (2)	3
P 406	Physical Education	1/2
	Total	20

Fourth Year - Eighth Semester

Course No.	Course Title	Credit Hours
A 425E	Engineering Mathematics	3
E 424	Refrigeration and Air-Conditioning	3
E 484	Marine Systems (2)	3
E 418	Machine Design	3
E 473	Latest Designs of Marine Diesel Engines	2
E 402	Naval Architecture (2)	3
E 455	Protection and Distribution of Electrical Circuits	
A 415E	Technical Report writing	1
P 407	Physical Education	1/2
	Total	21

Fifth Year - Ninth Semester

Course No.	Course Title	Credit Hours
A 526E	Mathematics	3
E 519	Fluid Mechanics	3
E 574	Internal Combustion Engines	3
E 594	Steam Generators (2)	3
C 578E	Electronics	2
E 564	Automatic Control System (3)	3
	Humanities	2
P 508	Physical Education	1/2
	Total	21

Fifth Year - Tenth Semester

Course No.	Course Title	Credit Hours
E 534	Operations Research	3
C 543E	Computer Applications	11/2
E 565	Automatic Control (4)	3
E 584	Marine Power Plants	2
E 503	Naval Architecture (3)	2
E 535	Planning Maintenance of Ships	3
E 536	Management of Marine Engineering	2
E 533	Engineering Economy	2
	Humanities	2
P 509	Physical Education	1/2
	Total	21

*** Extended Period (8 weeks)**

Course No.	Course Title	Credit Hours
E 575	Project	5

* Project credit points to be considered separately after the extended period.

Basic Elective Courses

Course No.	Course Title	Credit Hours
T 631E	Maritime Law	2
E 610	Mechanical Vibration	3
Or		
E 604	Ocean Engineering	3
A 651E	Marine Pollution	2

Seamens' Training Centre

Educational Objectives

The centre caters for the education, training and upgrading of students through the development of their knowledge, attitudes and skills in the specialities of seamen, mechanics or electricians. in accordance with the international standards; with a view to enable them to work on board ships in jobs related to their specialities.

The following programs of study are offered by the centre:

- * Basic studies prepare the students to work as seamen, mechanics or electricians on board ships. This program is offered twice a year.
- * Upgrading Studies: for personnel working in the maritime sector in the afore-mentioned specialities to raise their standard of performance.
- * Mandatory Courses relating to safety, which include:
 - Fire-Fighting
 - Personal Survival at Sea;
 - First Aid.

The afore-mentioned mandatory courses are integrated in the program of Basic Studies.

Scheme of Studies

The duration of studies is 20 weeks, each week of 33 hours study. The course also provides for a period of 10 days practical training on board the Academy's training-ship. Examinations are held during the last week of the course.

Basic Studies for Seamen

The aim of this study is to train and qualify young men to work on board ships as ordinary seamen. Study includes training in basic marine skills and general sea knowledge such as: rescue, survival at sea, coxswain, fire-fighting, and damage control.

Course No.	Course Title	Hours
S 111	Safety on board ships	112
S 112	General Seamanship	48
S 113	Marine Service on board ships	16
S 114	Deck Seamanship	160
S 115	Navigation	80
S 126	Engineering Knowledge	32
A 141S	English Language	32
S 116	Practical Training on Board Training Ship	56
Total		536

Basic Studies for Mechanics

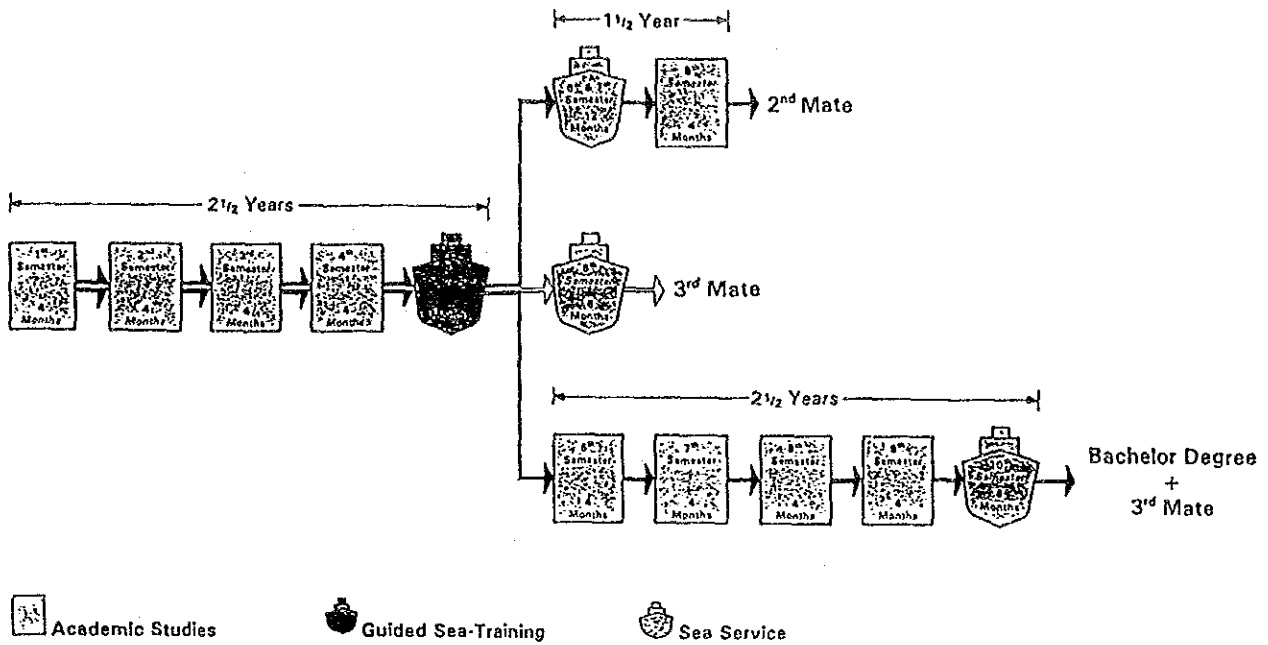
The aim of this study is to train and qualify young men to work on board ships. The courses are as follows:

Course No.	Course Title	Hours
S 111	Safety on Board Ships	112
S 112	General Seamanship	48
S 113	Marine Service on Board Ships	16
S 121	Internal Combustion Engines	64
S 122	Steam Engines	48
S 123	Auxiliary Engines	64
S 124	Automatic Control	32
S 132	Electrical Equipment	32
S 125	Workshop Technology	32
A 141S	English Language	32
S 128	Practical training on Board Training Ship	56
Total		536

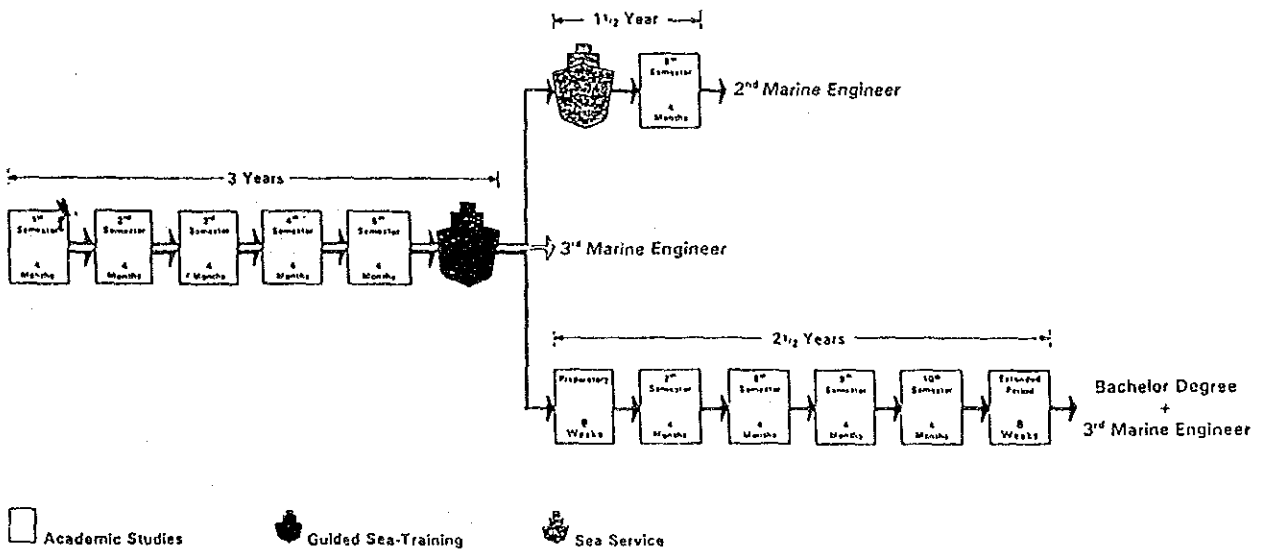
Basic Studies for Electricians

The aim of this study is to train young men to work as electricians on board merchant ships. The courses are as follows:

Nautical Studies Programs



Marine Engineering Studies Programs



Course No.	Course Title	Hours
S 111	Safety on Board Ships	112
S 112	General Seamanship	48
S 113	Marine Service on Board Ships	16
S 131	Marine Electrical Engineering	180
S 124	Automatic Control	32
S 127	Engineering Knowledge for Electricians	48
S 125	Workshop Technology for Electricians	32
A 141S	English language	32
S 133	Practical Training on Board Training Ship	56
Total		536

Upgrading Studies

The duration of studies is 12 weeks; each week of 33 hours of study. Examinations are held in the last week of the study.

The aim of studies is to upgrade seamen, mechanics and electricians working on board ships in their specialities.

Courses are identical to those of the basic studies for seamen, mechanics, and electricians, but with more depth in knowledge and skills acquisition.

C. 海技資格免許制度

1) エジプトにおける航海士及び機関士の海技免状

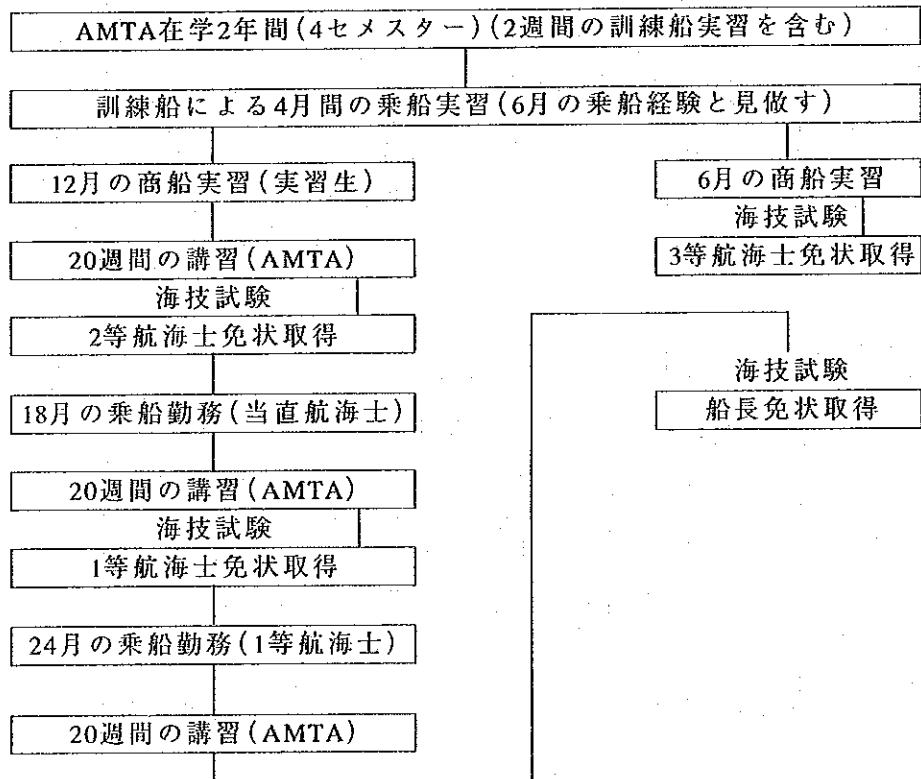
エジプトにおける航海士及び機関士の海技免状は海運省港湾・灯台局が管轄しており、各免状保有者は経験年数ならびに裏書き等により、航海区域や船舶を限定して以下のように、上位の船舶職員として乗船できる制度となっている。

海技資格(免状)	船 舶 職 員
三等航海士	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当直航海士(全海域・全船舶) ・ 船長(36月の当直航海士経験後、沿海区域の200総吨以下の貨物船) ・ 一等航海士(18月の当直航海士経験後、沿海区域の500総吨以下の船)
二等航海士	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当直航海士(全海域・全船舶) ・ 船長(36月の当直航海士経験後、沿区域の500総吨以下の貨物船) ・ 船長(24月の当直航海士(内12月は一等航海士)経験後、沿海区域200総吨以下の旅客船) ・ 一等航海士(24月の当直航海士経験後全海域の500総吨以下の船)
一等航海士	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一等航海士(全海域・全船舶) ・ 船長(24月の当直航海士(内12月は一等航海士)経験後全海域の500総吨以下の貨物船) ・ 船長(24月の乗船(内12月は一等航海士)経験後短期国際航海の1,600総吨以下の貨物船)

船長	・ 船長(全海域・全船舶)
三等機関士	・ 当直機関士(全海域・全船舶) ・ 機関長(裏書き後沿海区域の主機出力3,000kw以下の船) ・ 機関長(裏書き後遠洋区域の主機出力750kw以下の船)
二等機関士	・ 当直機関士(全海域・全船舶) ・ 機関長(裏書き後、沿海区域の主機出力6,000kw以下の船) ・ 機関長(裏書き後、遠洋区域の出機出力3,000kw以下の船)
機関長	・ 機関長(全海域・全船舶)

2) アラブ海運アカデミー (AMTA) 航海・機関学部学生の海技免状取得プログラム

① 航海学部(船長免状取得までのコース)



② 機関学部(機関免状取得までのコース)

AMTA在学2.5年間(5 Semester)(2週間の訓練船実習を含む)	
訓練船による4月間の乗船実習(6月の乗船経験と見做す)	
海技試験	
3等機関士免状取得	
12月の乗船勤務(3,000kw以上の船の当直機関士)	
20週間の講習(AMTA)	
海技試験	
2等機関士免状取得	
30月の乗船勤務(3,000kw以上の遠航船の当直・整備機関士)	
20週間の講習(AMTA)	
海技試験	
機関長免状取得	

—AMTA航海・機関両学部入学資格—

1. 普通(技術)中学校卒業(就学年数12年)
2. 22才以下
3. 入学試験に合格
4. 身体検査に合格

D. 問題点

1) 船舶職員の教育訓練機関の見直し

日進月歩し、急速に複雑高度化している最近の船舶を運航する航海士、機関士に必要なAcademic Knowledgeの習得と訓練に要する期間としては、現行のAMTAの在学期間航海科2年4月、機関科2年10月(航・機共に4・5月の練習船実習期間を含む)は短か過ぎると思われる。在学期間延長の方向で見直しの要がある。

日本においては1年間の練習船実習を含めて、航海科、機関科ともに商船大学では4年6月、商船高等専門学校では5年6月である。

またAMTAは、日本国の無償援助による新鋭練習船(AIDA IV世3,000総吨)を使用した練習船実習を実施しているが、これは途上国では殆ど例を見ないことであり、更なる有効活用が望まれる。

2) 海技資格制度の見直し

エジプト国では船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約(STCW条約)に適合した海技資格制度としているが運用面において見直しがBetterと思われる点がある。即ち初任免状から最高免状(遠航・船長または機関長)までの各免状取得筆記試験の前にそれぞれ2乃至3年の間隔(必要乗船経験期間)を置いて、約5月の理論・知識に関する講習を2乃至3回AMTAにおいて開催しているが、これは受験者の負担が大きく、実行上若干の疑問があり、効率的でもないと思われる。船舶の安全運航を担保しうる船舶職員の選抜方法を別途検討すべきであろう。

他の国と同様に日本の海技資格試験も、筆記試験、口述試験及び身体検査から成り立っている。商船大学、商船高専等の卒業生は練習船実習修了後に3級海技士の海技免状を取得できる。この口述試験の際に、2級及び1級海技士の筆記試験の受験が認められており、両級に合格すれば両級の筆記試験合格証が発給される。2級の試験に失敗すれば自動的に1級の受験は失効し、改めて2級及び1級の筆記試験を受験することとなる。2級の筆記試験合格者は、残された2級口述試験の受験要件である海上履歴を充足した後に口述試験に臨み合格して始めて2級海技士の海技免状を取得できる。1級の海技免状の取得についても2級と同様である。

以上は学校卒業生の海技試験に関する筆記試験先行の特認制度である。

海技免状発給直前の海技免状取得希望者の資質・能力は口述試験によってチェックされ、海技免状所有者の安全運航能力は担保される。

(2) タンザニア

A. 船員教育制度の現状と課題

1) 海技免状制度

タンザニアにおける航海士および機関士の海技免状はダルエスサラームの通信・運輸省 (Ministry of Communication and Transport) の管轄下であり、つぎのように分類される。これらの免状はSTCW条約の内容を満たすべく所要の措置が取られている。

a) 航海士免状

1級航海士免状 (Class 1 Deck Officer Certificate)

2級航海士免状 (Class 2 Deck Officer Certificate)

3級航海士免状 (Class 3 Deck Officer Certificate)

4級航海士免状 (Class 4 Deck Officer Certificate)

5級航海士免状 (Class 5 Deck Officer Certificate)

1級免状は船長免状であるが、下級免状を所有する者で、船長裏書き試験を合格した者もそれぞれトン数制限の条件内で船長職をとることができる。その適用範囲はつぎの通りである。

海技免状の適用範囲 (裏書きによる拡大適用範囲を含めて)

(1) 1級航海士免状：すべての船舶の船長

(2) 2級航海士免状：すべての船舶の一等航海士

* 東アフリカ沿岸航路における船長裏書きある場合

：同航路における5000総トン未満の船舶の船長

：同航路における1600総トン未満の客船の船長

(3) 3級／4級航海士免状

：3級航海士免状はすべての船舶の当直航海士

：4級航海士免状は沿岸航路船舶の当直航海士

* 東アフリカ沿岸航路における船長裏書きある場合

：同航路における5000総トン未満の貨物船の船長

：同航路における1600総トン未満の客船の船長

- (4) 5級航海士免状：200総トン未満の船舶の当直航海士
*東アフリカ沿岸航路における船長裏書きある場合
：同航路における200総トン未満の貨物船の船長

b) 機関士免状

- 1級機関士免状(Class 1 Engine Officer Certificate)
2級機関士免状(Class 2 Engine Officer Certificate)
3級機関士免状(Class 3 Engine Officer Certificate)
4級機関士免状(Class 4 Engine Officer Certificate)

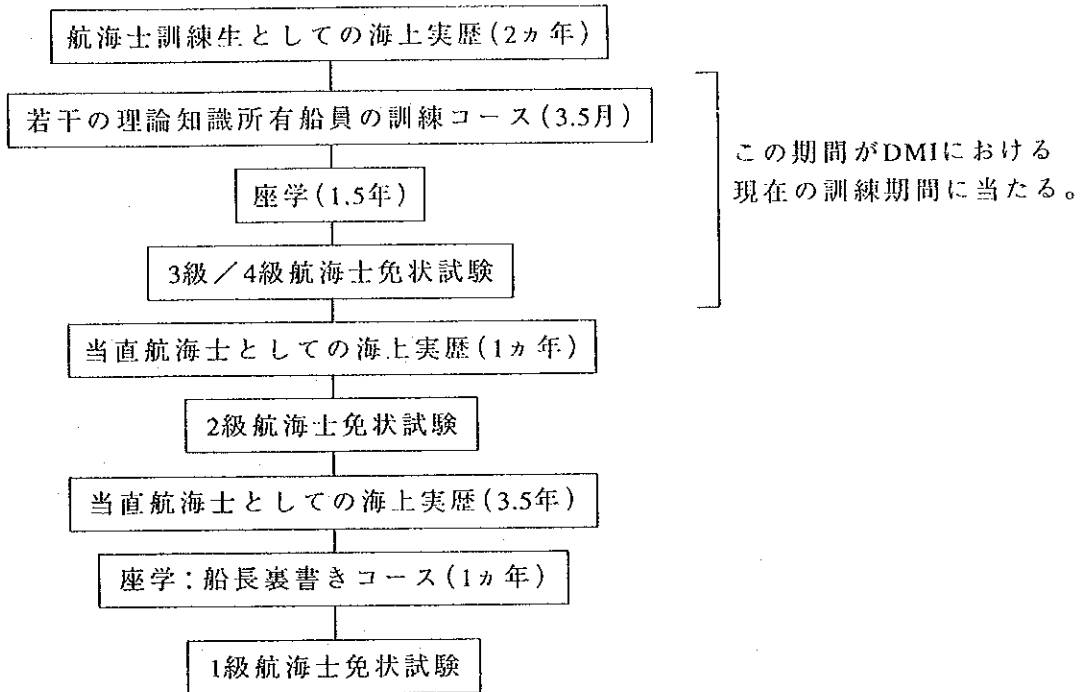
1級免状は機関長免状であるが、下級免状を所有する者も海上履歴をつけることで裏書きされ、それぞれ主機出力制限の条件内で、機関長職をとることができる。その適用範囲は次のとおりである。

海技免状の適用範囲(裏書きによる拡大適用範囲を含めて)

- (1) 1級機関士免状：すべての船舶の機関長
(2) 2級機関士免状：すべての船舶の二等機関士
*裏書きある場合
：東アフリカ沿岸航路における主機出力6000kw未満の船舶の機関長
(3) 3級機関士免状：すべての船舶の当直機関士
*裏書きある場合
：東アフリカ沿岸航路における主機出力3000kw未満の船舶の機関長
：主機出力750kw未満の船舶の機関長
(4) 4級機関士免状：すべての船舶の当直機関士
*裏書きある場合
：東アフリカ沿岸航路における主機出力750kw未満の船舶の機関長

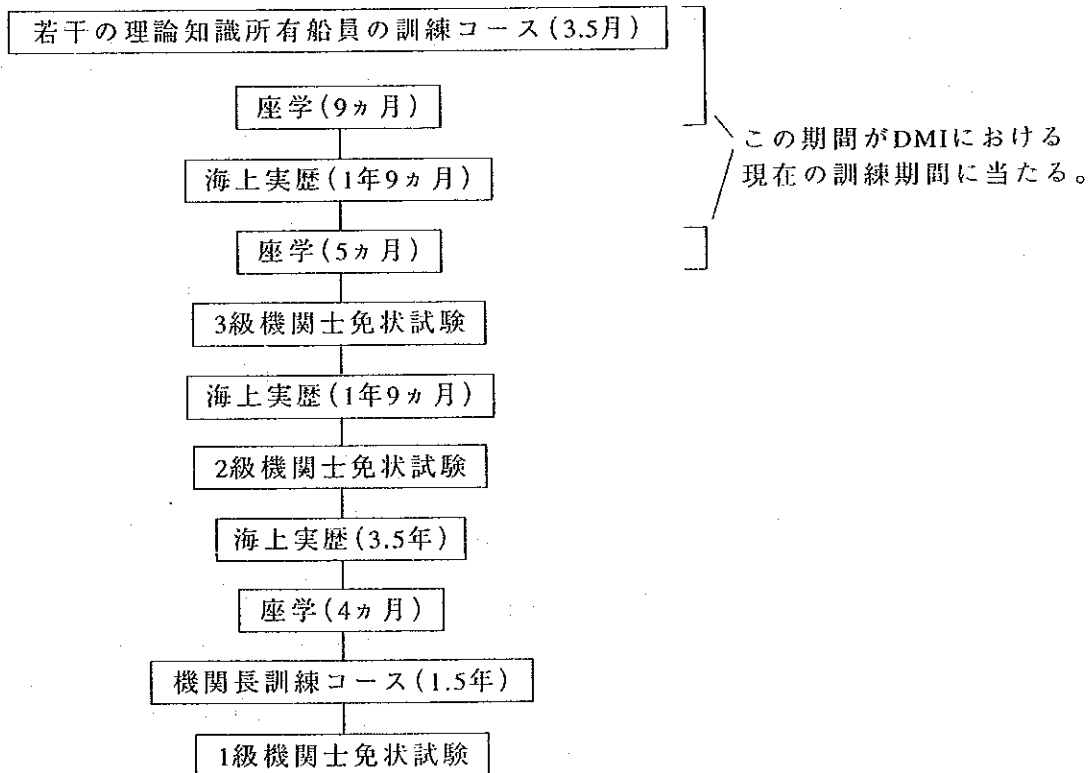
2) 養成訓練計画

- a) 1級航海士免状取得へ至るまでの養成訓練計画はつぎのとおりである。
入学資格：①高校修了証書 ②身体検査合格
③長期海上実歴および若干の理論知識所有者の訓練コースの修了



b) 1級機関士免状取得へ至るまでの養成訓練計画は次の通りである。

入学資格: ①高校修了証書 ②身体検査合格 ③長期海上実歴および若干の理論知識所有者の訓練コースの修了



3) 船員教育機関の概要

タンザニアに存在する唯一の船員養成機関はダルエスサラーム政府の通信運輸省の管轄下にあるダルエスサラーム海事訓練学校(Dar es Salaam Maritime Institute)である。同校は1978年にノルウェーのNORAD(ノルウェー対外援助技術庁)の援助で設立された船員訓練機関で現在、前述した3級までの航海士および機関士免状(内航免状)を取得させるための教育訓練を実施している。航海士コースと機関士コースがあり、使用言語は英語で、養成定員は100名である。1989年度における教官数は14名で、航海科教官は3名(内1名は外国人)、機関科教官は5名(内2名は外国人)、一般教養の教官1名、その他の教官5名(内2名は外国人)であった。教官の内3名が船長・機関長免状(1級)所有者で、8名が2級および3級免状所有者であった。

学生数は1988年度は47名、1989年度は55名で、1989年度55名の内分けは航海科コース15名、機関科コース30名、部員養成コース10名であり、すべてタンザニア人である。

これらの卒業生の就職先はTanzania Coastal Shipping Line, Zanzibar Shipping Corporation, Tanzania Railway Corp. Maritime Section(ビクトリア湖、タンガニカ湖、マラウイ湖の輸送)および、Tanzania Harbor Authority等である。

同校における短期コースは次の通りである。

(1) 甲板部員コース	(Efficient Deckhand Course)	5週間
(2) 小型船舶	(Small Crafts Course)	6週間
(3) 応急医療コース	(First Aid Course)	1週間
(4) 消火コース	(Firefighting Course)	1週間
(5) 生存コース	(Survival at Sea Course)	2週間

1級および2級航海士・機関士(外航職員)の養成コースは同国内にはなく、その養成訓練は外国(英国、エジプトのAMTA等)に頼っている。

ノルウェーは1994年をもってすべての援助を終了する予定であり、今後同校は自治体となり、80%はタンザニア政府の出資、20%は授業料で経費を賄うほか、小型船舶の安全検査等を行って収入の増加を図りたい意向であるが、ノルウェーの援助打ち切り後のタンザニア国による自主運営および自立継

続の見通しは決して明るくない。また、将来世界的な船員不足に対処して、船員養成を行い外貨を獲得するため、さらに上級の1級および2級の養成訓練を始めたいとの意向はあるものの、現状においては資金、設備並びに指導教官の不足からその実現性は全く定かではない。

B. 船員行政システムの現状と課題

1) 船員行政の概要

タンザニアはザンジバル革命後1964年に当時のタンガニーカとザンジバル島が連合してできた連邦国であり、防衛、外交、警察以外はダルエスサラーム政府とザンジバル政府がそれぞれ独自の政策を行っている。

タンザニアにおける船員行政の大元の基準は商船海運法 (Merchant Shipping Acts) 漁業法 (Fisheries Acts) および国内河川・湖運送法 (Inland Water Transport Acts) に定められる。管轄省庁はダルエスサラームの通信・運輸省で上記法律の関係規則を定めて船員行政に関する諸基準および諸要件の達成を図る。同省には海運担当職 (Directorate of Shipping) が設置され、その下に海運監督官 (Merchant Shipping Superintendent) を置いて実務の遂行に当たることとなっている。

労働争議およびその調停並びに労働協約の締結等の事項は労働社会福祉省 (Ministry of Labor and Social Welfare) の管轄となり、同省の労働局長 (Labor Comisioner) がこれらの事務を処理することとなっている。

しかしながら実際の所、タンザニアにおいては船員行政管理をふくめて、基本的な人材管理機構が整備されておらず、例えば海技免除の波及に関してはダルエスサラームの運輸省には人材は見あたらず、ダルエスサラームにある海事訓練学校 (前述のとおりここでは内航船舶を対象とした3級海技免除までの教育訓練を実施している) にその業務をたよっている等基本的な組織作りの面で立ち遅れており、日本の実質的援助を期待している。船員の雇用は原則としてタンザニア沿岸海運会社 (Tanzanian Coastal Shipping Co.) および中国・タンザニア合弁海運会社 (The Chinese-Tanzania Joint Shipping Co.) 等の海運会社によって行われるが、政府通達の行政管理の詳細は、各海運会社の取り決めに任せられ、雇用条件等の詳細は各海運会社を取り巻く諸条件によって各社ごとに異なってくる。雇用条件は免状裏書き手当て、赴任手当て、

特殊技能手当等を含む。

タンザニアにおける唯一の労働組合であったタンザニア労働者組織(JUWATA)は1978年2月に、旧タンガニーカ労働者国民連盟(NUTA)を引き継いだものであり、現在はOTTU(Organization of Tanzanian Trade Union)と呼ばれる。OTTUはいくつかの下部組織に分かれ、その内の一つが海員組合(Seamen's Union)として船員問題を取扱い、集団交渉、争議調停手続き等の組合員の利益増進のための活動に従事する。

ザンジバルにおける海員組合(OTTU)においては、船主との労働条件等の協議を含めた船員行政管理の基本的な枠組みを新たに法律化しようとする作業に取り組んでいる最中で、この面でも立ち遅れがみられる。現在同海員組合は2435人のメンバーを有し、これまでに契約ベースで164人、日勤者ベースで2237人の雇用を斡旋している。

2) ザンジバル海運公社(Shipping Corporation of Zanzibar)における船員管理

ザンジバル海運公社はザンジバル政府通信・運輸省の管轄下で、ザンジバル革命政府通達の諸規則にしたがって業務遂行を行っている。同公社の運営はザンジバル運輸省の指名したメンバーを含む運営委員会(Board of Directors)が運営の任にあたり、船員行政管理についても問題があればその都度運輸省と協議を行って処理する等、日本とは比較にならない小さな規模の海運実態とあいまって船員行政管理の基本的な組織作りの立ち遅れが認められる。

船員雇用業務は同公社の管理部が担当するが、雇用者の年齢は18才以上でなければならない。これらの若年雇用者は業務につきながら訓練をうける。経験雇用者は通常25才以上の者である。同公社は船員に対し、赴任手当、海上休日手当(Weekend at Sea Allowance)、海上勤務手当(Hardship Allowance)等を含む給与を支払う。タンカー乗船勤務者には基本給の70%が危険手当として支払われる。船員の有給休暇は1年につき45日である。この際配偶者および子供4人分を含めて往復切符が無料支給される。

定年退職年齢は55才である。船員は50才になれば退職申請を行うことができる。退職時、就業期間およびその時点の基本給に応じて退職金が支払われる。ザンジバルにおける退職職員は自動的に海員クラブ(Seamen's Club)の会

員となる。退職船員は原職にとどまり、要すれば、日勤者ベースの給与を受けて船内の特殊業務(Chipping, Scraping, Cleaning, Painting)に従事することが可能である。

3) タンザニア港湾庁における船員管理

原則としてすべての船員は登録担当者(Registrar)による船員登録を受ける。登録業務および免状発給を担当する登録担当者はダルエスサラームの通信・運輸省に指名された港湾庁の港長(Senior Harbor Master)である。

タンザニア港湾庁はタグ、網取りボート、その他港湾庁の所要船舶の運航にあたる港湾庁の船員を抱えていると共に、ダルエスサラームが強制水先入港である事から、Class 1の海技免状を所有するパイロットと船舶機関士を擁している。

タンザニア港湾庁においては通常の船員管理は、ポートマネージャー(Port Manager)が担当する。給与及び諸手当については港湾庁理事会(Board of Directors)の承認を受けた後にこれを管理する。その他、休暇表および当直表等の管理が含まれる。

タンザニアには現在のところ船員のための労働組合は無く、全国同じ単一の労働組合に加入していることから、船員は原則として他の労働者と同じ給与を受けることになる。ただし、Class 3~Class 1の航海士、機関士海技免状所有者は特殊技能職と見なされ、一般よりも高い給与体系と船舶職員手当の支給により通常労働者の約2倍の報酬をうる。しかしながらこれらの措置にもかかわらず、Class 1の海技免状所有者を港湾庁にとどめ置くは非常に困難で、これらの免状所有者はさらに賃金の高い(5倍程度)外国船へ流出する傾向が強い。

3. 質問票及び面接での調査結果要約(各国別)

(1) エジプト

A. 関係機関の一般的コメント(面接内容要約)

- ・ 外務省は日本の技術協力を高く評価、重点国と位置づけJICA担当デスクを1人から3人に最近強化した。

担当局長は赴任間もないが、JICAとも緊密な関係を保ちつつ積極的な事業展開を目指している。個人的見解としながらも、職業訓練、雇用問題、社会教育、文盲対策に特に関心を示しているが、注意を引いたのは、今までより技術階層下位の者を対象とする研修が必要とする主張であった。

- ・ SCAは自身の目的に合わせた訓練機関を運営しており、このため訓練の組み立て、実施、効果測定、フォローアップ等について、日本での研修が大いに参考になっているが、大きくは視野を広め、現状改革の方向づけができた(could invent change)のは、特に指摘すべき点で日本での研修全般について、深甚なる感謝の意を表している。
- ・ MOMTは日本(外国)での研修は、技術の移転を受けるのみならず、異種異質なもののとの接触によって開眼が促され、両者相まって、広くこれが伝播されれば絶大な効能を有無という観点から極めて重要視している。この見方に立って本コースの帰国研修員が適材、適所で右の機能を果しているかどうか、次官自ら把握した上で、日本へ報告する旨約束している。同次官はセミナー会場へも出向き各帰国研修員に日本で得た研修成果の活用状況並びに活用阻害要因を中心に質問すると同時に、問題ある場合は前向き努力するとして出席者を鼓舞している。
- ・ AMTAは、日本の技術協力・無償資金協力による総合的な協力を高く評価している。日本をモデルとして、計画、実践を心掛けているところ、日本の協力は物凄いインパクトになっているとのことである。
本コースの成果は、自身の訓練活動に有効に活かされているが、周辺国への技術移転を主題とすれば日本とこれら諸国とのギャップがあらゆる面において、あまりにもおおきすぎるのでギャップの中間にあるであろうエジプトでの所謂第3国研修が、研修の効果のみならず経費面でも得策ではないかと提案している。

B. 研修機関の本コースに対する反応(質問票要約)

・ 目的の妥当性

何れの機関も例外なく、エ国の養成するところに合致し、妥当であるとしている。

・ 目的・目標設定の変更の必要性の有無

全ての機関が、集団コースの性格、目的を十分認識しており、変更の必要性は認めていないが、MOMTは、educational system for marine service boats and tug boatsの追加を要望している。

・ 研修員選抜の方法

各機関とも、JICAの指定する資格要件に合わせて人選している。Egyptian Navigation Co.のみが、候補者の願書、学歴、外国語能力、専門知識、健康状態のチェックの他にテストを実施している。

・ 人選に必要な期間

各機関における所要機関は長短ばらつきがあり、2～3週間(MOMT、SCA)から3ヵ月(ENC.)となっている。

・ G. I.の入手先及び関係部局への通報方法

外務省、MOMT、関係部局(会社)が定着したルートになっているが、同時並行的にJICAエジプト事務所からも入手しており、この経路は、手続きの促進に大いに役立っている。なお、何らかの手違いで、AMTAの帰国研修員はG. I.の存在すら知らされずに来日した例が1件あった。関係部局への通報は、内部文書によっている。

・ 研修員の帰国後の評価

MOMTとENCはレポートの提出、改善のための提案、同提案の検討、討論、改善実行の姿勢等を基に評価しており、有効な提案は可能な限り実行に移すように努力している。SCAは評価は行っていない。

・ 他先進国での研修

何れの機関もしていない。

・ 研修機会創設の要望

MOMTは以下の研修機会の創設を要望している。

① Prevention of Marine Pollution

② Port Safety

- ③ Giant Clerks (Operation and Maintenance)
- ④ Chemical and Oil Transport
- ⑤ Port Training-Training for Trainees
- ⑥ Recent Trend for Training Centers Management in Port
- ⑦ Maintenance of Marine Service Units
- ⑧ Port Pricing
- ⑨ Port Marketing of Strategy
- ⑩ Total Quality Management on Port and Terminal Operation
- ⑪ Top Management
- ⑫ Management of Training Centers
- ⑬ Training (Planning-follow up and Info. Analysis)

- ・ 本コースへの今後の研修員派遣の必要性
全関係機関が今後も継続して研修員を派遣したいと要望している。

C. 帰国研修員の本コースに対する反応(質問票要約)

- ・ 研修成果の適応性

日・エ両国の制度や技術水準の違いから、成果を全面的に活かし得る状況にないが、日本を目標としてこれに近づくための基本認識が固められたことが大きな意義を持っている。各論的には、Mariners'law, Labor management、賃金、組合、船員教育行政、教育制度、シラバス作り、資格認定制度等々の改善に研修で得た知識・経験が大いに役立っているとしている。

- ・ 研修項目別成果適応の程度

別表

- ・ 適応阻害要因

AMTAにおいては、特に阻害要因なしとしている。提案しても管理部門の理解が得られないこと、組合が非力であること等をあげている向き (Port & Light House)があるが、何れにしても日本とのギャップを埋めるには、時間をかけ着実に問題を解決してゆく必要があると訴えている。

- ・ 他先進国の研修参加の有無

関係機関は、研修員を派遣していないと回答しているが、当時の東ドイツ(造

船修理事会)、西ドイツ(Port & Light House)及びイタリー(ENCO)へ各1名が研修に参加している。両ドイツとの相違はドイツ語学習が必須で通訳を介さず直接授業であること、イタリーの事例は内容的には、日本のそれとほぼ同じであるが、日本の方が適応度が高いと判定している。

・本コース改善のための提言

- ① 討論の機会の充実
- ② 技術情報を始めとする実質的なフォローアップ
- ③ エジプトは現在、海運業の余剰人員の削減・合理化及び技術革新(semi automaticからautomatic)を進めつつ新たな次元への移行途上にあるので、かかる状況を勘案してのプログラム
- ④ 研修機関の最大限6ヵ月間の延長

・研修機会創設の要望

- ① 本コースに対応する上級コース
- ② Dual Purpose Crew Education
- ③ 船舶機関
- ④ Technical Precision & Training

(2) タンザニア

A. 関係機関の一般的コメント(面接内容要約)

- ・ 外務省は研修員受入れ事業を始めとして、日本の技術協力を高く評価している。本コースについても多大な関心を持っており、ザンジバルには本チームにオーストラリア・太平洋課長が同行することとなった。
- ・ 通信運輸省(含ザンジバル)は、外貨収入の面では、外国雇用の船員による送金が観光に次ぐ旗頭で、この見地からも、船員養成訓練は重要であるとしている。しかしながら、法制度や組織体制の点では未だ整備されておらず、Institution Building、フレームワーク作りはこれからの問題であり、日本からの専門家の派遣を要望したい。人材開発については、国内ではDMIが唯一の育成機関であり、しかも、レベルはClass IIIまでで、それ以上はAMTAやガーナの専門機関等外国に依存せざるを得ない現状にある。一般に外国の海運に関係する要因は経験が不十分であり、資質の向上に日本での研修は極めて適切、more than demandableのものである。帰国研修員はIndustryに大きく貢献しており、高く評価している。

- ・ ザンジバル海運公社 (Shipping Corporation of Zanzibar) は、ザンジバルは海に囲まれた小島であるが故に、海運立島を目標に開発優先順位のトップにしている。開発途上にあるものの、今日あるは日本のお陰であるとして、高く評価している。
- ・ タンザニア港湾庁 (Tanzania Harbours Authority) は、制度・技術等の面で、日本との格差が大き過ぎるものの、THAのこれからの改善に、日本での研修は極めて有意義である。THAは、港湾機能を高めcommercialisationを目指すための人材育成計画 (top management) に対してIDAから賃金手当の承認を取りつけており、近く実行計画を提出する段取りになっている。これに関連して、コンピュータシステム開発並びに訓練管理の分野に必要とする要因確保の必要性に迫られている。
- ・ タンザニア沿岸海運汽船 (Tanzania Coastal Shipping Line) は、全ての面で日本とのギャップは大き過ぎるもの、帰国研修員は日本で習得した知識を咀嚼しつつ有効に使って船員管理の責任者として重きをなしており、また従業員全般の資質向上をOJTを通じて実践するなど、その活動を多とし、日本の研修にこれ以上を期待することはできないと、日本の研修を高く評価している。

B. 関係機関の本コースに対する反応(質問票要約)

- ・ 目的の妥当性
全ての機関が、夕国の要請するところに合致し、妥当であると判断している。
- ・ 目的・目標設定の変更の必要性は認めず、このままでよしとしている。但し、THAは類似の途上国との比較検討のプログラムの設定の必要性を強調し、TCSLは船員訓練行政・指導者コースの併設を要望している。
- ・ 研修員選抜の方法
各機関とも、学歴、経験、現在の職責を基に人選を行っている。特に試験や面接は実施していない。
- ・ 人選に必要な期間
研修員派遣の親元機関は数日から2週間、長いところで1カ月程度で人選は可能としているが、外務省は全手続きを終えるのに2カ月を見ている。本土及びザンジバルの通信運輸省では年間人材訓練計画をつくっており候補者を絞っているのも直ぐにも人選に応じられるとのことである。

なお、最終の人選は本土2～3名、ザンジバル2名の割合でショーリストを作り、この中から決定する仕組みをとっている。

・ G.Iの入手先及び関係部局への通報方法

外務省、通信運輸省、関係部局(会社)のルートが定着している。同時平行的にJICAタンザニア事務所からも送付を受けている。

・ 研修員の帰国後の評価

大多数の機関において、レポートの提出やパネル討論を通じての評価や研修成果を役立てているかどうかの視点からperformance appraisalを行っている。

・ ほかの先進国での研修

対象機関のうち、SCZが、スウェーデン、ノルウェー、エジプト、英国、シンガポールに研修員の派遣実績があるようで、日本との大きな違いは、スウェーデンの場合、期間が2年と長期であること、集団と個別方式の組み合わせで、OJTをも含むこと、終了すればマスターが付与される点にあるとのことであるが、本コースと直接対比には無理があろう。

なお、海技資格取得のためにTHAは経費を負担の上、4人を英国に派遣している。

・ 研修機会創設の要望

ザンジバル通信運輸省

① Navigation Aids

SCZ

② 船舶機関

③ 航海

TCSL

④ 船員行政・訓練指導者

THA

下記コースへの割当て(1コース2～3人)

① Computer Application in Port Management and Operation

② Human Resources management and Training

③ Occupational Health and Safety

④ Port and Cargo Security

⑤ Equipment Maintenance

- ・研修員の継続派遣の必要性

何れの機関もその必要性を認めると同時に割当枠の増大を強く要望している。

C. 帰国研修員の本コースに対する反応(質問票要約)

- ・研修成果の適応性

現状改善のための動機付け、方向付けがなされた点を強調し、日本との格差は大き過ぎるとしながらも、国の内外の要請に沿ってのTraining Needsの把握、訓練計画の策定、訓練進歩状況の把握、問題の発見、法制度の整備、船員行政、労働管理等に対応する有効なworking toolとして、研修の成果が働いており、成功した事例では日本を見習って、給与体系を魅力あるものに改めたため、船員の流出を防ぐことができた(THA)点をあげている。

- ・研修項目別成果適応の程度

別表

- ・適応阻害要因

経済の不安定、外貨不足、法制度の未整備、政治家の感心が薄い、本省関係者が運輸行政に精通していない、基本的な船員事故防止策がない、船員の安全・福祉をモニターする法的監視機関がない、練習船がない、訓練生用宿舎がない、船員教育の程度が低すぎる等々を阻害要因としてあげている。

- ・ほか先進国の研修参加の有無

該当する帰国研修員はいない

- ・本コース改善のための提言

- ① 類似途上国との比較検討のプログラムの充実
- ② 期間の3~4カ月の延長
- ③ 中間エバリュエーションの実施
- ④ 技術情報の提供を始めとするフォローアップ

- ・その他の要望

- ① 本コースの受入れ枠の拡大
- ② Refresherコースの設定
- ③ 船員訓練センターの設置
- ④ 練習船の供与

参考

予定に追加してDMIを訪問したが、その際の校長の夕国船員養成に関する主なコメントは以下のとおり

- ① ノルウェーは'78年よりプロ技協として援助してきているが、'94年を持って終了する。
- ② その後の夕国による自主運営・自立継続の見通しは明るくない。
- ③ DMIを自治体に改組する方向でことが運んでいるようであるが、board of managementが揃っていない。
- ④ 海運行政の行方が不明確である。
- ⑤ 本省のshipping担当者は3名しかいない。
- ⑥ 沿岸航海が主で、訓練レベルが低く、これを引き上げようとしている(intensive programme of training)が、ターゲットが高すぎ、投入期間も短く、加えて指導教官も不足していて土台無理である。
- ⑦ 世界水準に高めるには、資金面でも困難である。
- ⑧ 世界的には船員全般の需要は将来dry upするかもしれない。

別表一 研修項目別成果適応の程度

I T E M S		Applicability to your job			
		A	B	C	
1. Labour Management of Seafarers	a. Standards of Labour Management (= Mariner's Law)	1 } 1 1 } 1	4 } 10 6 } 6	2 } 2 2 } 2	
	b. Actual Labour Control in Oceangoing Vessels		4 } 9 5 } 5	2 } 4 2 } 2	
	c. Seafarer Salaries and Unions	1 } 1 1 } 1	5 } 10 5 } 5	2 } 3 1 } 1	
2. Administration of and Certification System for Seafarers	a. Administration System	1 } 4 3 } 3	2 } 6 4 } 4	5 } 5 5 } 5	
	b. Certification System (= Law for Ship's Officers)	5 } 5 5 } 5	2 } 3 1 } 1	4 } 5 1 } 1	
	c. National Examination System for Ship's Officers	4 } 4 4 } 4	2 } 5 3 } 3	3 } 3 3 } 3	
3. Educational System for Seafarers	a. Educational System	2 } 3 1 } 1	4 } 9 5 } 5	1 } 2 1 } 1	
	b. Observation to Training Ships	4 } 6 2 } 2	2 } 2 2 } 2	2 } 7 5 } 5	
	c. Observation to Training Institutes	3 } 5 2 } 2	3 } 3 3 } 3	1 } 6 5 } 5	
4. Circumstances of Japanese Shipping	a. Modernization of the Labour Control System	5 } 5 5 } 5	5 } 5 5 } 5	1 } 3 2 } 2	
	b. Current State and issues of the Mixed-Manning System	4 } 4 4 } 4	3 } 1 2 } 2	3 } 4 1 } 1	
		Total	38	63	44
		% ≒	26	44	30

注①：集計数の上段はエジプト
下段はタンザニア

注②：回答者 エジプト 10名

但し、無回答の欄あり、また、2名は Not Applicable
タンザニア 7名

III. 技術セミナーの概要

1. 技術セミナー(指導)実施内容

A. セミナー内容

わが国の船員制度近代化の実験実況の進歩及びSTCW条約の批准並びに、内航海運の人手不足の状況をふまえ、最近10年間におけるわが国の船員教育訓練制度の進展について、商船大学、商船高等専門学校及び航海訓練所における運航士教育(航機療養船舶職員教育)の導入と海員学校の教育訓練制度の改革等に主眼を置いて、その概略について解説した。

また、上記に関連して、航海訓練所練習船における実習訓練状況を収めたVTRを上映した。

なお、このVTRはチーム派遣前にダビングして両国関係機関へ配布した。

B. 当該技術項目の当該国の状況

エジプトについては、アラブ海運大学校(AMTA)における船員教育訓練制度は確立しており、日本から供与された新造練習船の有効活用が図られている。

タンザニアについては、ダルエスサラームに船員訓練機関(DMI)を持ち、内航船舶の航海士及び機関士の教育が統括的に行われている。

C. 配布資料

セミナー中の配布資料として、添付書類V-4を配布した。

2. 実施状況

・エジプト国にて

A. 日時：平成4年8月20日(木) 9:00～12:00

B. 場所：海運省内会議室(アレキサンドリア)

C. 参加者：19名

・タンザニア国にて

A. 日時：平成4年8月28日(木) 9:00～12:00

B. 場所：ニューアフリカホテル(ダルエスサラーム)

C. 参加者：33名

3. 実施成果等

エジプト・タンザニア両国とも帰国研修員のみならず、多数の関係者の出席を得て、盛大に行われた。質疑応答も活発で、出席者に多大のインパクト・感銘を与えた。

IV. 当該研修コース(カリキュラム等)改善への具体的提言

本報告書II-3.質問票及び面接での調査結果要約(各国別)で詳述したとおり、両国共に研修員を送り出した機関も、研修員自身も総じて本グループトレーニングの研修成果が帰国後の業務遂行の上で有効に役立っているという認識を強く持っていることから、現在の研修目的(Purpose)及び到達目標(Objective)並びに当該研修コースの内容(Curriculum)を大筋において変える必要は全くなく、今後もこれらの目的、目標及び内容に沿ってグループトレーニングを継続することが妥当であると思料される。また今後研修員を送り続けたいかとの間に対しては全ての機関が送り続けたいとしており、研修員の送り出しに消極的な機関は皆無であったこと、並びに研修員の多くが同僚もしくは下位の者に対し、本研修コースへの参加を勧めたいとしていることから研修コースの内容を大幅に変更する必要はないと考える。

しかしながら一部、研修の細部について調査結果要約で述べられているような要望が出されていることから、今後の研修コースの更なる改善のために次の事項を提言したい。

- 1) 日本における海運の技術水準及び行政上の諸制度は近代的で非常に進んでいるため、研修参加国における実態とは大きなギャップがあり、学んだ事柄をそのまま直接応用していく点で困難が伴うという意見については謙虚に耳を片向け、今後の研修プログラムの改良に役立てていくことが必要である。例えばこれは研修カリキュラムの改定につながる場合もあろうし、また同じ研修カリキュラムに従って研修を進める場合にも担当者がこの点を頭において工夫を重ねながら研修を進めることが研修プログラムの質の改良の上からも大切である。
- 2) 研修参加国に直接応用可能な研修カリキュラムを強化することが必要である。例えば現在実施されているカントリーレポート制度を更に発展させて、同程度の水準を有する発展途上国の船員行政制度、教育訓練制度等について比較・検討が行えるような機会を増やしていくことが望ましい。
- 3) 研修の中間期において研修成果を評価する機会をもうけ、その結果を後半の研修に生かしていく等の措置をとることが望ましい。例えば中間期におけるアンケート調査の実施及びその結果のフィードバック等も一つの方法であろう。

- 4) 研修内容には討論、見学の機会を増やした方が望ましい。例えば訪問先の教育機関でこれに所属する教官又は学生と討論を行う等の機会を作る等の工夫を行うことが、より有効に我国の教育訓練実態を理解させる一助となろう。
- 5) 研修を終了して帰国した後も研修員達に対し雑誌、文献等の情報を定期的に送付することによって、その後の新しい技術情報の供給を継続することが望ましい。この点についてはフォローアップの規模や経費の点で問題があることが予想されるが、本研修コースについても研修後のフォローアップについて前向きに検討することが望ましい。

V. 添付資料

1. 平成3年度当該コースの概要

(1) コース名等

1) コース名

- ・和文：船員管理システム
- ・英文：Group Training Course in Seafarer's Management System

2) 研修期間

平成3年10月17日～平成3年11月27日

3) 定員

10名

(2) コースの目的・背景

1) コースの目的

当コースは、我が国の船員管理システムを例として、船員の養成から船員行政に基づく労務管理までの一貫した知識・技術を付与し、参加途上国の船員管理システム構築に資することを目的とする。

参加研修員には、日本における船員の労務管理システム、船員行政と海技試験制度、船員の養成システム及び日本海運を取り巻く現状についての講習と各船員養成機関及び外航船社内の研修施設の見学が用意されている。

2) コースの背景

近年、海上交通システムにおける急速な技術革新の進展によって、船員の知識及び技術の向上を国際的統一基準の必要性が叫ばれ、「1978年の船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約」(STCW条約)の発効を見た。

これを受けて、開発途上国においては、自国海運の振興を目的として、自国養成船員のレベルアップを図ろうとする気運が高まり、船員教育訓練システムの充実と、それを支える船員管理システムの構築が急がれている。

こうした背景のもと、当コースは、日本における船員養成システム、船員行政システム及び外航船会社における労務管理システムを主体とした講義を行い、更には教育機関・施設の見学を通じて途上国の船員養成及び船員管理システムの構築に寄与するものである。

なお、本コースは、平成2年度「船員教育行政コース」の研修内容を見直しし、「船員管理システムコース」として新設された。

(3) 到達目標

研修修了後、参加者は次の事項について理解する。

- (1) 船員の労働管理
- (2) 船員行政と海技資格
- (3) 船員教育制度
- (4) 日本海運を取り巻く現状

(4) 研修カリキュラム

(1) 船員の労働管理

目的：日本における労働管理の基準及び現状を労使関係問題点を含めて理解する。

- a. 船員労働管理基準
- b. 外航船における労務管理
- c. 船員の賃金と組合活動

(2) 船員行政と海技資格

目的：日本における船員行政の概要と乗組基準及び資格について理解する。

- a. 船員行政システム
- b. 海技資格制度
- c. 海技従事者国家試験制度

(3) 船員教育制度

目的：日本における船員教育制度を理解する。

- a. 船員教育制度 I
- b. 船員教育制度 II
- c. 各教育、訓練機関・施設の見学

(4) 日本を取り巻く現状

目的：日本海運における船員の労務上の問題点を理解する。

- a. 船員制度の近代化
- b. 混乗システムの現状と問題点

(5) 見学

船舶技術研究所、東京商船大学、船社研修所(川崎汽船[株])、航海訓練所練習船、(株)郵船海洋科学、大井コンテナターミナル、海技大学校、大島商船高等専門学校、唐津海員学校

(6) カントリーレポート発表、討論

(7) 研修成果発表、討論

(5) 研修実施体制及び運営

本コースは、国際協力事業団が、運輸省海上技術安全局船員部との協力により企画・運営するものとする。

なお、国際協力事業団は、研修業務の一部を、財団法人海事国際協力センターに委託する。

研修実施機関： 国際協力事業団 東京国際研修センター 研修第二課
〒151 渋谷区西原 2-49-5
Tel. 03 - 3485 - 7051(代表)

研修実施協力機関： 運輸省海上技術安全局船員部教育課
〒100 千代田区霞が関 2-1-3
Tel. 03 - 3580 - 3111(代表)

研修委託先： 財団法人 海事国際協力センター
〒150 渋谷区恵比寿西 2-3-3 武田第二ビル7階
Tel. 03 - 3462 - 4841

(6) 年度別国別受入実績表

昭和46年～平成2年までは船員教育行政コースとして実施

地域別	年度 国名	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H1	H2	H3	計	
		ア ジ ア (13)	韓国	1		1				1								1						
ビルマ																		1					1	
フィリピン	2			1			1	1			1	1		1	1	1	1		1	1	1	1	14	
タイ				1							1	1		1			1			1	1	1	7	
ヴェトナム			1																				1	
マレーシア			2	1	1	1	1	1	1	1	1		1			1	1						13	
シンガポール			1			1	1	1	1	1	1	1	1			1	1						11	
インドネシア	1				1	1	2	1	1			1	1	1	1		1					1	1	13
バングラデシュ								1	1							1								3
インド				1																1			1	3
スリランカ					1											1								2
パキスタン																		1	1					2
モルジブ																		1					1	2
中 近 東 (2)	イラン					1	1	1	2	1		1	1									1	9	
	イラク					1																		1
ア フ リ カ (7)	タンザニア					1	1			1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	13	
	アルジェリア																		1	1			2	
	モロッコ																		1		1		2	
	マラウイ																1	1	1	1			4	
	エジプト					2	1	2	2	2	1	1	1		1	1	11	1	1	2	1	2	21	
	チュニジア							1															1	
	象牙海岸										1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	8	
中 南 米 (3)	コロンビア									1													1	
	ホンジュラス																1						1	
	ブラジル											1		1									2	
太 平 洋 (3)	バプア・ニューギニア													1					1	1			3	
	ソロモン													1									1	2
	フィジー									1	1	1	1	1									1	6
	計(23ヶ国)	4	4	5	3	8	8	10	8	8	9	10	8	8	7	7	8	7	10	8	8	11	155	

Interview Memo for Evaluation Meeting

For

THE GROUP TRAINING COURSE IN SEAFARER'S MANAGEMENT SYSTEM 1991-1992

1. Evaluation of Training Programme in general
 - ① additional comments, if any

2. Evaluation of Training Programme in detail
 - ① depth
 - ② topics to be added
 - ③ others, if any

3. Evaluation of Aim(s) and Objective(s) in general
 - ① additional comment, if any

4. Evaluation of Aim(s) and Objective(s) in detail
 - ① applicability
 - ② What kinds of your colleagues do you think the most suitable to this course ?
(qualifications and needs)
 - ③ additional comment, if any

- Result of Evaluation Sheet -

SUPPLEMENT OF QUESTIONNAIRE FOR FUTURE PROGRAMMES

1-(1) To what extent has your training programme adequately organized in order to satisfy those aim(s) and objective(s) ?

95.50% (average)

(2) Reasons

QUESTIONNAIRE FOR FUTURE PROGRAMMES (Question 11-22)

11. How do you evaluate your training/study programme on each of the following items ?

(1) coverage of subject

[1] too broad 0 [2] about right 10 [3] too narrow 0

(2) level

[1] too advanced 0 [2] about right 10 [3] too elementary 0

(3) depth

[1] too deep 0 [2] about right 9 [3] not deep enough 1

(4) logical order of topics

[1] good 6 [2] fair 4 [3] poor 0

(5) relationship of each topic to the objectives of your training/study programme

[1] good 8 [2] fair 2 [3] poor 0

(6) balance of time allocation among lectures, discussions, exercises and observations

[1] good 6 [2] fair 4 [3] poor 0

If you answer to the last item (6) is fair or poor, how did you find the amount of time allocated to each of the following items ?

	too much	about right	too little
lectures	0	2	0
discussions	0	1	1
exercises	0	0	2
observations	0	2	0

12. What was the most beneficial and useful topic in the programme ?

- Administration of & Certification System for Seafarers
- Dual Purpose Officers
- Seafarers Salaries & Unions
- Labour Management of Seafarers
- Educational System
- Practise on board Training Ships
- National Examination System for Ship's Officers

13. If any topics were to be added to the programme, what should they be ?

- Evaluation of Seafarers Work at Sea
- Proper Method for Planning of Seafarers Education in order not to have inflation/
Shortage of Seagoing Personnel in long term
- Safety/Rescue System around Japanese Coast and International Waters
- IMO Conferences on improving groval maritime system
- Discussion with training students

14. If any topics were to be eliminated from the programme, what should they be ?

15. How do you evaluate the presentations by the lectures in your training/study programme ?

[1] very good 1 [2] good 6 [3] fair 3 [4] poor 0 [5] very poor 0

16. How do you evaluate guidance and directions given by lecturers on each of the following occasions ?

	very good	good	fair	poor	very poor
discussions	4	4	2	0	0
exercises	1	5	2	0	0
observations	5	4	1	0	0

17. How do you evaluate the following items ?

	very good	good	fair	poor	very poor
textbooks, resumes, etc.	5	5	0	0	0
training/study equipment	8	1	0	0	0
lecture/seminar rooms	9	1	0	0	0

18. How do you find the duration of your training/study programme ?

[1] too long 0 [2] about right 10 [3] too short 0

19. How did you find the intensity level of your training/study programme ?

[1] too leisurely 0 [2] about right 10 [3] too hard 0

20. How do you evaluate the general administration and management of your training/study programme ?

[1] very good 9 [2] good 1 [3] fair 0 [4] poor 0 [5] very poor 0

21. Were your expectations of this programme met ?

[1] fully met 2 [2] mostly met 8 [3] somewhat met 0 [4] not met 0

22. How do you find the applicability of the techniques and knowledge obtained through your training/study programme in your country ?

[1] very good 1 [2] good 8 [3] fair 1 [4] poor 0 [5] very poor 0

SUPPLEMENT OF QUESTIONNAIRE FOR FUTURE PROGRAMMES

2-(1) To what extent have those aim(s) and objective(s) accomodated requirement in the field of this training course/seminar in your country ?

66.50% (average)

(2) Reasons

- Situation different (little shipping, educational/certificatiopn system, technology etc.)

2. 本調査団対象婦国研修員名簿

婦国研修員動向調査結果 (エジプト)

No. 1

	婦国研修員氏名	参加年次	研修参加時職位	現職 (空欄は質問票回収、ミナ参加及び面談不可を示す)
1	MR. HUSSEIN KHALIL HASSANEIN	1977.10.23 - 1977.12.20	SEAMAN TRAINING CENTRE ARAB MARITIME TRANSPORT CHIEF	
2	MR. OSSAMA MOHAMED MOTAWI	1978.10.18 - 1978.11.24	ARAB MARITIME TRANSPORT ACADEMY. SEAMEN'S TRAINING CENTER. HEAD OF MECHANICAL DEPT INSTRUCTOR	
3	MR. AMIN AREF MOHAMED	1980.10.20 - 1980.12.20	ARAB MARITIME TRANSPORT ACADEMY. LECTURER	
4	MR. MOHAMED NABIL MAHMOUD EL SOBKY	1981.10.13 - 1981.12.18	ARAB MARITIME TRANSPORT ACADEMY. SEAMEN TECHNICAL TRAINING CENTER. LECTURER	LECTURER, MARINE ENGINEERING DEPT., COLLEGE OF ENGINEERING STUDIES & TECHNOLOGY. ARAB MARITIME TRANSPORT ACADEMY
5	MR. HAFEZ AMIN AWAD EL KAHKI	1982.10.12 - 1982.11.19	ARAB MARITIME TRANSPORT ACADEMY. DECKS DEPARTMENT LECTURER	
6	MR. SAMY MINA BOUTROS	1985.10. 3 - 1985.11.13	ARAB MARITIME TRANSPORT ACADEMY. SEAMEN TRAINING CENTRE. DIRECTOR	
7	MR. ADEL EL SAYED AHMED ATTIA	1991.10.18 - 1991.11.27	ARAB MARITIME TRANSPORT ACADEMY. SEA TRAINING SECTOR. PROFFICOR IN NAVIGATION	
8	MR. AHMED ALI AHMED ABDEL HALIN	1977.10.23 - 1977.11.25	EGYPTIAN NAVIGATION COMPANY. SPECIALIST IN SEAMEN'S AFFAIRS DEPARTMENT	
9	MR. MOHAMED ABDEL FAITH MOHAMED	1988.10.21 - 1988.11.30	EGYPTIAN NAVIGATION COMPANY. SEAMEN DEPARTMENT. THIRD SPECIALIST	THIRD SPECIALIST. SEAMEN DEPT., EGYPTIAN NAVIGATION CO.
10	MR. EL SAYED M. AMIN ABO YOUSSEF	1991.10.18 - 1991.11.27	EGYPTIAN NAVIGATION COMPANY. SEAMEN DEPARTMENT. SECOND SPECIALIST	SECOND SPECIALIST. SEAMEN DEPT., EGYPTIAN NAVIGATION CO.

	帰国研修員氏名	参加年次	研修参加時職位	現職 (空欄は質問票回収、または参加及び面談不可を示す)
1 1	MR. AHMED ALY SALEM REZK	1984.10. 8 - 1984.11.14	PORTS AND LIGHT HOUSES. FONCTIONNAIRE	CHIEF OF SEAMAN BOOK SECTOR. MARINE INSPECTION DIV.. PORT & LIGHTHOUSES ADMINISTRATION
1 2	MR. IBRAHIM MOHAMED ABDALLA SHARARA	1986.10. 2 - 1986.11.12	MARITIME INSPECTION DEPARTMENT PORTS AND LIGHT HOLEGAL. LAWY INVESTIGATION SECTION IN MARI	LAWYER IN MARITIME INSPECTION DEPT.. INSPECTION SEC.. PORTS & LIGHTHOUSES ADMINISTRATION
1 3	MR. MAGDY MOUSTAFA MOHAMED	1989.10.25 - 1989.11.29	PORTS AND LIGHT HOUSES ADMINISTRATION. GENERAL INSPECTION CENTRAL DEPARTMENT. DIRECTOR OF SEAMEN SECTION	SYSTEM ANALYST. INFORMATION CENTER DEPT.. PORTS & LIGHTHOUSES ADMINISTRATION
1 4	MR. HANY HASSAN MD. EL ISKANDARANY	1978.10.18 - 1978.11.24	THE MINISTRY OF MARITIME TRANSPORT. MANAGER FOR SEAMENS PLANING DEPARTMENT	PUBLIC RELATION SECTION MANAGER. ADMINISTRATION DEPT.. ALEXANDRIA NATIONAL IRON & STEEL CO.
1 5	MR. SAMIR FAHMY MATTIA	1990.10.18 - 1990.11.28	ADMINISTRATION OF PORTS AND LIGHT HOUSES. MINISTRY OF MARITIME TRANSPORT. LAWYER	REGISTER OF SHIPS. MARINE INSPECTION DIV.. PORT & LIGHTHOUSES ADMINISTRATION
1 6	MR. MOHAMED AHMED HASSAN SOLIMAN	1979.10.17 - 1979.11.28	MINISTRY OF TRANSPORT. MANAGEMENT AND ORGANIZATION. ESPICALIST	
1 7	MS. RAKIA IBRAHIM SAKR	1979.10.17 - 1979.11.28	MINISTRY OF TRANSPORT. ORGANIOZATION. SPECIALIST	MANAGER. ORGANIZATION DEPT.. EGYPTIAN NAVIGATION CO.
1 8	MR. MOHAMED MAHMOUD ABDEL MOULA	1976.11. 7 - 1976.12.10	ARAB NAVY EGYPT. DEPARTMENT OF SEAMEN AFFAIRS. FIRST SPECIALIST FOR SEAMEN AFFAIR	
1 9	MR. EL-SAYED ADEL ABDEL-KADER	1987.10.23 - 1987.12. 2	SUEZ CANAL AUTHORITY. ORGANIZATION & TRAINING. DEPUTY DIRECTOR	HEAD OF CENTRAL TRAINING DEPT.. SUEZ CANAL AUTHORITY
2 0	MR. WAGED MOSTAFA ABD EL HALLEM MASHED	1989.10.20 - 1989.11.29	SUEZ CANAL AUTHORITY. SUEZ CANAL TRANSIT. HARBOUR MASTER ASSISTANT	PORT SAID EGYPT & ISMAELIA EGYPT

小帯国研修員動向調査結果（タンザニア）

帰国研修員氏名	参加年次	研修参加時職位	現職（空欄は質問票回収、ミナ参加及び面談不可を示す）
1 MR. ABDU HAMISI UMANDE BATARINGAYA	1982.10.13 - 1982.11.19	TANZANIA HARBOURS ORGANIZATION. DIRECTORATE OF MANPOWER. PRINCIPAL MANPOWER DEVELOPMENT	
2 MR. CREDO FRANCIS KIPUTA	1985.10.2 - 1985.11.13	TANZANIA HARBOURS AUTHORITY. PERSONNEL, PRINCIPAL PERSONNEL OFFICER	
3 MR. JEREMIAH NAEMAN MSANGI	1988.10.19 - 1988.12.5	TANZANIA HARBOURS AUTHORITY. MANPOWER DEVELOPMENT AND ADMINISTRATION. DIRECTOR	
4 MR. CLAUDIO MICHAEL MBENA	1991.10.17 - 1991.11.27	TANZANIA HARBOURS AUTHORITY. DIRECTORATE OF MANPOWER DEV. & ADMINISTRATION. MANPOWER DEVELOPMENT MANAGER	MANPOWER DEVELOPMENT MANAGER. MANPOWER DEVELOPMENT & ADMINISTRATION. TANZANIA HARBOURS AUTHORITY
5 MR. ABDALLAH STEPHEN CHAD	1976.11.10 - 1976.12.10	TANZANIA COASTAL SHIPPING LINE LTD.. PERSONNEL MANAGER	
6 MR. CHARLES KAWEDI MAKAWIA	1980.10.24 - 1980.11.26	TANZANIA COASTAL SHIPPING LINE. TANZANIA SEAMEN AND SHIPS LTD.. CHIEF	
7 MS. SIBILINA ELEZA ALLEN TEMU	1990.10.20 - 1990.11.28	TANZANIA COASTAL SHIPPING LINE LIMITED. MARINE, MARINE PERSONNEL OFFICER	ACTING ADMINISTRATIVE MANAGER. ADMINISTRATION DEPT.. TANZANIA COASTAL SHIPPING LINE LIMITED
8 MR. ALI WKOPI SALIM	1984.10.3 - 1984.11.16	DEPARTMENT OF PORTS, TRAVELS AND TRANSPORT. ADMINISTRATIVE OFFICER FOR TRAINING AND OPER	TRAINING OFFICER. ADMINISTRATIVE DEPT.. THE SHIPPING CORPORATION OF ZANZIBAR
9 MR. MOHAMED YAHAYA MOHAMED	1986.10.1 - 1986.11.12	THE SHIPPING CORPORATION OF ZANZIBAR. ADMINISTRATIVE OFFICER	
10 MR. SULEIMAN MUSSA AMEIR	1987.10.21 - 1987.12.2	SHIPPING CORPORATION OF ZANZIBAR. ADMINISTRATION, OFFICE SUPRINTENDENT	ASSIST. ADMINISTRATIVE MANAGER. THE SHIPPING CORPORATION OF ZANZIBAR
11 MR. OTHMAN ALI OTHMAN	1989.10.18 - 1989.11.29	SHIPPING CORPORATION OF ZANZIBAR. DAR ES SAAM, ASST BRANCH MANAGER	ASSIST. BRANCH MANAGER, DAR ES SALAAM, THE SHIPPING CORPORATION OF ZANZIBAR
12 MR. RAMADHAN SALEH HUSSEIN	1979.10.19 - 1979.11.28	MINISTRY OF COMMUNICATION, PORT AND MARINE DEPT.. HARBOUR MASTER AND PILOT	PORT OFFICER, PORT & MARINE DEPT.. MINISTRY OF COMMUNICATION
13 MR. ABRAHMAN HASSAN CHANDE	1981.10.16 - 1981.11.21	JUWATA SEAMEN UNION. SEAMEN UNION-ZANZIBAR	GENERAL SECRETARY, SEAMEN UNION, ORGANIZATION OF TANZANIA SEAMEN UNION, ZANZIBAR

3. QUESTIONNAIRE

(相手国関係機関用)
エジプト/タンザニア

FOLLOW-UP TEAM
FOR
JICA EX-PARTICIPANTS
OF
GROUP TRAINING COURSE
IN
SEAFARER'S MANAGEMENT SYSTEM
(ADMINISTRATION FOR SEAMEN'S EDUCATION)

Questionnaire
for
the Relevant Authorities
in
Egypt/Tanzania

It is much appreciated if you would complete this questionnaire and forward to the JICA office in order to accomplish our mission.

Please use additional sheet of paper and attach it herewith, if necessary.

* Name of Your Organization : _____

* Please explain briefly duties or services of your organization.

* Please attach an organization chart herewith.

JICA has been conducting the group training course in Seafarer's Management System (former name - Administration for Seamen's Education) annually in accordance with the purpose and objective specified below.

(1) Purpose

The purpose of this course is to provide knowledge and techniques concerned with seafarer training and labour control systems based on seafarer administration, using the seafarer management system in Japan as an example, and to contribute to making suitable seafarer management systems for participating countries.

(2) Objective

By the end of the training period, the participants are expected to be versed in the following items practiced in Japan:

- (1) Labour Management of Seafarers
- (2) Administration of and Certification System for Seafarers
- (3) Educational System for Seafarers
- (4) Circumstances of Japanese Shipping

The total number of ex-participants in Egypt/Tanzania up to date accumulates 2013 for the course.

QUESTIONS

1. Do the above-mentioned purpose and objective of the course accommodate the requirements of this field in your country ?

() Yes / () No

↓

If "No", please describe the reason(s).

2. Is it necessary to change the above-mentioned purpose and objective in order to accommodate more adequately your country's requirement in the field of seafarer's management ?

Yes / No

↓

If "Yes", please describe your suggestion(s) or alternative purpose or objective(s).

3. How do you select your applicant for the JICA training course ?

Please explain in detail your procedures for application.

(e.g. What kind of examinations or interviews do you do ?)

4. How long do you usually need to select your applicant(s) ?

_____ month(s) _____ week(s) _____ day(s)

5. From which organization did you get the information of this training course (From whom/which organization did you get General Information of this training course ?) and how did you inform it to your subordinate(s) in your organization ?

6. Does your organization evaluate your participant(s) after returning from Japan ?

Yes / No

↓
If "Yes", tell how your organization evaluates.

7. Have your organization assigned your staff member or the relevant personnel in this field to participate in a similar training course/seminar in a foreign country other than Japan ?

Yes / No

↓
If "Yes", specify the following:

{
• Country : _____
• Year : 19 ____
• Name of Course/Seminar : _____
• Duration : ____ year(s) ____ month(s) ____ week(s)
• Organized by : _____
• Sponsored by : _____

{
• Country : _____
• Year : 19 ____
• Name of Course/Seminar : _____
• Duration : ____ year(s) ____ month(s) ____ week(s)
• Organized by : _____
• Sponsored by : _____

{
• Country : _____
• Year : 19 ____
• Name of Course/Seminar : _____
• Duration : ____ year(s) ____ month(s) ____ week(s)
• Organized by : _____
• Sponsored by : _____

8. Compared with the training course or seminar held in a foreign country other than Japan, do you have any suggestion or comment for improving our training course ?

9. If you have any request concerning the relevant training courses, please describe it bellow.

Thank you very much for your cooperation.

(帰国研修員用)

FOLLOW-UP TEAM
FOR
JICA EX-PARTICIPANTS
OF
GROUP TRAINING COURSE
IN
SEAFARER'S MANAGEMENT SYSTEM
(ADMINISTRATION FOR SEAMEN'S EDUCATION)

Questionnaire for JICA Ex-Participants

You are kindly requested to complete this questionnaire and forward to JICA office. Please use additional sheet of paper and attach it herewith, if necessary.

1. Your Name and the Year of Participation (Fill in the below.)
(Please underline your surname or family name.)

Mr./Ms. _____ 19__

2. Your Address & Phone Number (Fill in the below.):

• Residence _____

Phone: _____ Fax.No.: _____

• Mailing _____

• Office _____

Phone: _____ Fax.No.: _____

3. Present Occupation (Fill in the below.):

- Position _____
- Division or Department _____
- Name of Your Organization _____
- Type of Your Organization
 - () Governmental
 - () Local Governmental/Public
 - () Semi-Governmental
 - () Non-Governmental/Private

4. Your Career and Duties (Answer the below three questions.)

4-① Describe your career after returning home from Japan.

<u>(Service Duration)</u>		<u>(Your Position)</u>	<u>(Organization Name)</u>
(Month)	(Year)	(Month)	(Year)
①	_____, 19__ ~ _____, 19__	_____	_____
②	_____, 19__ ~ _____, 19__	_____	_____
③	_____, 19__ ~ _____, 19__	_____	_____
④	_____, 19__ ~ _____, 19__	_____	_____
⑤	_____, 19__ ~ _____, 19__	_____	_____

4-② Describe briefly the duties of your services in your country at present.

4-③ Attach a chart of the organization to which you belong and indicate your section in annexed paper.

5. Applicability of the training course (Answer the below three questions.)

5-① Could you apply what you had experienced or obtained through the course programme (Lectures, Observations and Study Trip) to your daily activities after returning from Japan ?

() Yes / () No

↓

5-②-1 If "No", tell why you could not apply.

5-②-2 If "Yes", evaluate the following training items of curriculum with a mark (x) in respective places from the viewpoint of its applicability to your job.

I T E M S		Applicability to your job			
		A	B	C	
A : Excellent	B : Fair	C : Poor			
1. Labour Management of Seafarers	a. Standards of Labour Management (= Mariner's Law)				
	b. Actual Labour Control in Oceangoing Vessels				
	c. Seafarer Salaries and Unions				
2. Administration of and Certification System for Seafarers	a. Administration System				
	b. Certification System (= Law for Ship's Officers)				
	c. National Examination System for Ship's Officers				
3. Educational System for Seafarers	a. Educational System				
	b. Observation to Training Ships				
	c. Observation to Training Institutes				
4. Circumstances of Japanese Shipping	a. Modernization of the Labour Control System				
	b. Current State and issues of the Mixed-Manning System				

* The above items are not all the same as those when you attended the course. However, evaluate each item as the relevant field of the above-mentioned items.

5-③ If you choose A or B in the above box, answer the following questions.

Ⓐ Explain briefly what kind of the knowledge and experience (Lectures, Observations and Study Trip) and how you applied.

Ⓑ Point out difficulties, if any, in applying the knowledge and experience you acquired in the course to your job.

Ⓒ Which items (or part) of the course do you find the most useful ? Describe the reason why you find it useful.

6. Have you attended a similar training programme or seminar in the field of seafarer's management in a foreign country other than Japan ?

() Yes / () No

↓

6-① If "Yes", specify the following :

- Year of Participation : 19____
- Duration of Course/Seminar : ____ year(s) ____ month(s) ____ week(s)
- Name/Title of Course/Seminar ; _____
- Venue of Course/Seminar : (Country Name) _____
- Organized by : _____

- Sponsored by : _____

- Year of Participation : 19____
- Duration of Course/Seminar : ____ year(s) ____ month(s) ____ week(s)
- Name/Title of Course/Seminar ; _____
- Venue of Course/Seminar : (Country Name) _____
- Organized by : _____

- Sponsored by : _____

6-② Attach its training curriculum, if any.

7. Compared with the training course or seminar held in a foreign country other than Japan, do you have any suggestion or comment for improving our training course ?

Thank you very much for your cooperation.

4. 技術セミナー配布用レジュメ

Recent Development on Maritime Educational and Training System in Japan

1. Preface

Factors that have influenced the new development in the maritime educational and training system in Japan during the recent decade are:

1) Modernization project of seafarer's system

Various technical innovations extend to almost all navigational instruments and cargo machinery on board in addition to the engine space such as M-0 ships, satellite positioning system, etc.

A drastically changing economic situation encircles the Japanese shipping industry. A sharp rise of manning costs due to strengthening of Japanese currency invited loss of international competitiveness, hence decrease of number of Japanese seafarers.

There arose strong demands for change in the seafarer's system to restore international competitiveness.

2) The STCW convention

The STCW convention was adopted in 1978 and came into force in 1984. Japan revised Mariner's Law and Law for Ship's Officers in order to ratify the STCW convention.

3) Mixed manning system on Japanese flag vessels

2. Surroundings behind the development

1) Revisions of the certification system in connection with the STCW convention

8 grades of certificate of competency are reduced to 6 grades with change of the title of each license as follows:

Division of Maritime Officer's (Navigation) Certificate of Competency

- First grade Maritime Officer (Navigation)
- Second grade Maritime Officer (Navigation)
- Third grade Maritime Officer (Navigation)
- Fourth grade Maritime Officer (Navigation)
- Fifth grade Maritime Officer (Navigation)
- Sixth grade Maritime Officer (Navigation)

(1)

Division of Maritime Officer's (Engineering) Certificate
of Competency

- First grade Maritime Officer (Engineering)
- Second grade Maritime Officer (Engineering)
- Third grade Maritime Officer (Engineering)
- Fourth grade Maritime Officer (Engineering)
- Fifth grade Maritime Officer (Engineering)
- Sixth grade Maritime Officer (Engineering)

Following two kinds of certificate of competency are added to introduce W/O (Watch Officer) system in the wake of the development of the modernization experiments.

- Bridge Watch Third grade Maritime Officer (Navigation)
- Engine Watch Third grade Maritime Officer (Engineering)

2) Modernization experiments

The research was made for two years from 1977 to 1979. The Committee on the Modernization of Seafarer's System was established in 1979. Modernization experiments started in 1979 with an aim to introduce both DPC (Dual Purpose Crew) system and W/O (Watch Officer) system.

In 1981, Step A experiment began and this system was secured by law as the Modernized Ship of Type 1 that is operated by 18 men.

In 1982, Step B experiment began and this system was institutionalized by law as the Modernized Ship of Type 2 with 16 seafarers.

In 1986, Step C experiment began with much more technically advanced ships and this system was secured by law as the Modernized Ship of Type 3 with 14 seafarers.

Pioneer Ship experiment started in 1987 aiming to attain 11 to 12-man work force system.

3. Outline of the maritime educational and training system

1) Educational institutions for recruits

Two Universities of Mercantile Marine: Tokyo and Kobe

Five Mercantile Marine Colleges: Toyama, Toba, Yuge,

Hiroshima and Oshima

Eight Schools for Seamen's Training: Otaru, Miyako, Tateyama,

Shimizu, Namikata, Karatsu, Kuchinotsu and Okinawa

(2)

- Institute for Sea Training: Tokyo
2) Reeducational institution
Marine Technical College: Ashiya

4. Summary of the recent development

1) Introduction of dual purpose officer's course

In order to provide qualified experiment staffs, in 1980 special courses were set up in Marine Technical College. Young officers and engineer officers were sent to these courses from shipping companies that participated in the experiments for learning respective opposite skills. The courses consist of 6-month schooling period in the college and 3-month sea training aboard a conventional M-0 ship.

Finally the Ministry of Transport decided to introduce Dual Purpose Officer's course into both Universities of Mercantile Marine and Mercantile Marine Colleges with an agreement from the Ministry of Education.

The new training scheme allowed no extension of the training period. Therefore each proper curriculum, either deck or engine, had to be streamlined as possible as can to incorporate necessary opposite curriculum, either engine or deck.

In this case the term "proper" means original, e.g. engineering subjects for engine cadets, and the term "opposite" means newly added, e.g. navigational subjects for engine cadets.

In 1984 the Dual Purpose Officer's course officially started in both Universities of Mercantile Marine and Mercantile Marine Colleges as well as in Institute for Sea Training.

Under the new training scheme, the sea training for navigation cadets basically consists of 6-month sail training, 3-month diesel ship training and 3-month turbine ship training. So does basically the sea training for engineering cadets of 3-month sail training, 6-month diesel ship training and 3-month turbine ship training.

During this sea training period, every cadet has to learn both his proper skills, either deck or engine, and his opposite skills, either engine or deck.

On average about 70 percent of the whole training hours is apportioned to the proper learning and the rest to the opposite

learning.

The Law for Ship's Officers defines the Watch Officer as follows:

- (1) Watch officer qualified with a license of Bridge Watch Third grade Maritime Officer (Navigation)
- (2) Watch officer qualified with a license of Engine Watch Third grade Maritime Officer (Engineering)
- (3) Watch officer qualified with licenses of both Bridge Watch Third grade Maritime Officer (Navigation) and Engine Watch Third grade Maritime Officer (Engineering)
- (4) Watch officer qualified with a license of Third grade Maritime Officer (Navigation) and a license of Engine Watch Third grade Maritime Officer (Engineering)
- (5) Watch officer qualified with a license of Third grade Maritime Officer (Engineering) and a license of Bridge Watch Third grade Maritime Officer (Navigation)

The fresh graduates from this Dual Purpose Officer's course correspond to either the 4th or 5th category.

In 1988 the first batch completed successfully the whole training periods to become the first dual purpose officers from among fresh graduates in the Japanese shipping industry.

2) Extension of the sea training period in Schools for Seamen's Training

In the light of a severe shortage of young seafarers in the coastal shipping industry, quite recently the Ministry of Transport has decided to revise the training scheme of Schools for Seamen's Training.

The school was originally aimed to recruit dual purpose crew of oceangoing vessels.

However, the course is now focussed on bringing up officers and engineer officers qualified with licenses of both Fourth grade Maritime Officer (Navigation) and Fourth grade Maritime Officer (Engineering) at the same time.

The revision will extend the sea training period from one month to nine months. It means the whole training period including schooling and sea training will be extended by six months, thus reaching three years and half in total.

The sea training under this new scheme will start at the

(4)

end of this year.

5. Future's prospects

Since the start of the Dual Purpose Officer's course in 1984, more than 300 dual purpose officers are born already under this new training scheme.

However, mainly because of the high appreciation of the Yen since 1985, Japan is forced to introduce a scheme for mixed manning on Japanese flag vessels.

This trend has sharply slowed down the increasing pace of the modernized ships. It naturally leads to not enough employment to take these all newly born dual purpose officers from fresh graduates.

In the meantime, Japan is facing a shortage of young seafarers, particularly on coastal ships. So it is becoming an urgent issue to secure fresh school leavers by utilizing to the utmost the functions of all existing educational institutions. For this it may be necessary to strengthen the interrelationship between these institutions.

Above all earnest efforts will be needed to make sea life more attractive by taking various measures so that young people can again come back to sea.

The maritime educational system also should undergo a revision to foster such seafarers as are able to meet the requirements arising from the increasing mixed manning system.

Training ships also must be utilized efficiently and tactically for the betterment of the training system as well as for calling young people back to sea.

Finally needless to say, continuous and stable employment should be combined with the above-mentioned various counter-measures to secure qualified young work force in the future.

5. 当確日訪問機関に提出した英文所見

(エジプト)

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)
TOKYO INTERNATIONAL CENTRE (TIC)
49-5, 2-CHOME, NISHIHARA, SHIBUYA-KU
TOKYO 151 JAPAN

Cairo, August 20, 1992

Dear Sir,

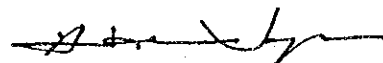
It is my great pleasure to submit the summary report of the Follow-up Team for Ex-participants of Seafaerer's Management System (former name - Administration for Seamen's Education) Course.

The Team, which was dispatched by the Japan International Cooperation Agency as part of its technical follow-up programme for the returned participants in Seafarer's Management System (former name - Administration for Seamen's Education) Course and consists of three members as mentioned below, arrived in the Arab Republic of Egypt on August 16, 1992 and then continued its follow-up activities for the period of four days.

During the visit, we could obtain many valuable comments and suggestions about this Course from the competent authorities concerned and also from the ex-participants and other people concerned. We are quite sure that the information we obtained should be greatly useful for the purpose of improving this training course and also technical cooperation programme.

Finally I would like to express my heartiest appreciation for your warm hospitality and kind cooperation extended to us during our stay in your country.

Yours faithfully.



Hideo TAKEI

Leader, Follow-up Team for Ex-participants
of the Seafarer's Management System
(Administration for Seamen's Education)

SUMMARY REPORT

The Technical Follow-Up Team for JICA Participants who attended Seafarer's Management System (Administration for Seamen's Education) Course

I. OBJECTIVES

The Follow-up Team visited ex-participants, their organizations and related organizations for the purpose of

- i) researching the overall sector of this training field in the countries the team visits, thus contributing to identification of problems and needs of ex-participants which they may now have in their daily execution of work.
- ii) providing consultation through evaluation of the results of the training in Japan, thus checking the applicability of the training items and
- iii) improving the JICA's future training program in the field of Seafarer's Management System.

II. PERIOD:

From August 15, 1992 to August 22, 1992

III. MEMBERS

- (1) Mr. Hideo TAKEI
Management Director,
Tokyo International Center
Japan International Cooperation Agency
- (2) Mr. Takeshi YAGI
Professor (Engineering)
Institute for Sea Training,
Ministry of Transport
- (3) Mr. Toshio WADA
Senior Advisor,
Marine Department,
The Maritime International Cooperation Center of Japan
Japan International Cooperation Agency

IV. SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM

1. Aug. 16 (Sun.) Arr. Cairo (19:15) LH-652
 2. Aug. 17 (Mon.)
 - Visit to JICA Office
 - Courtesy Call to the Embassy of Japan
 - Courtesy Call to Ministry of Foreign Affairs
 - Courtesy Call to Ministry of Transport
 3. Aug. 18 (Tue.)
 - Move to Ismailia by car
 - Visit to Suez Canal Authority and other organizations
 - Meeting with Ex-participants
 - Move to Cairo by car
 4. Aug. 19 (Wed.)
 - Move to Alexandria by car
 - Visit to Ministry of Maritime Transport
/ Meeting with Ex-participants
 - Visit to Arab Maritime Transport Academy and other organizations
 - Meeting with Ex-participants
 5. Aug. 20 (Thu.)
 - Seminar on the recent development of this field
(Recent Development on Maritime Educational & Training System in Japan)
 - Visit to Alexandria Port Authority
 - Friendship Party hosted by the Team
 - Move to Cairo by car
 6. Aug. 21 (Fri.) - Report to the Embassy of Japan and JICA office
 7. Aug. 22 (Sat.)
 - Collection of data and Report Making
 - Meeting in the Team
- Lv. Cairo (07:45) KL-562

V. EGYPTIAN PERSONNEL WITH WHOM THE TEAM MET

1. Ministry of Foreign Affairs
Amb. Sami Abdel Latif
Director, Cultural Relations and Technical Cooperation
2. Suez Canal Authority
Mr. Adel Abdel Kader
Director General, Training and Organization
3. Ministry of Maritime Transport
Gen. Hani Hosni
First Undersecretary
Mr. Abdel Fattah Abdalla
Undersecretary of State for General Secretariate
Mr. El-Sayed Abdou
Director General for Training in the Ministry
Mrs. Afaf Ahmed
Director General for Training in Egyptian Navigation Co.
4. Arab Maritime Transport Academy
Dr. Gamal Mokhtar
Chairman
Dr. Yousri El-Gamal
Dean of Engineering Faculty
Dr. Mohamed Ali Lotfi
Head of Maritime Engineering Dept.
Dr. Rafaat Serkis
Dean of Maritime Faculty
5. Alexandria Port Authority
Gen. Ahmad Said Metheda
Chairman

VI. EX-PARTICIPANTS WITH WHOM THE TEAM MET (EGYPT)

<u>YEAR OF TRAINING</u>	<u>NAME</u>	<u>PRESENT POST</u>
1984	Ahmed Ali Salem Rizk	Ports & Light House Administration
1986	Ibrahim Sharara	„
1989	Magdi Mostafa	„
1990	Samir Fahmi Mata	„
1976	Mohamed Abdel Moula	Egyptian Navigation Co.
1979	Mrs. Rakia Ibrahim	„
1991	El-Sayed Mohamed	„
1988	Mohamed Abdel Fattah	„
1978	Hani Hassan	Alex. National Iron & Steel Co.
1981	Dr. Nabil El Sobky	„
1982	Dr. Hafez El-Kahki	Arab Maritime Transport Academy
1987	El Sayed Adel	Suez Canal Authority

VII. SUMMARY OF FINDINGS

Among 20 (twenty) ex-participants, the Team could meet with the 12 of them, who cooperated with the Team in answering the Questionnaire which JICA had distributed in advance.

Through the meeting with the ex-participants and officers of the related organizations, the Team could obtain their valuable comments and proposals as well for improving the Course and requests for follow-up services on the Course

(1) Suggestions and opinions obtained all through the activities of the Team in Egypt for improving the Course are as follows :

a) Objectives on General Information

Objectives set on this course are quite acceptable to the Egyptian requirement in general, however, one opinion was disclosed that the changes taken place in Egypt in terms of manpower rationalization and technical innovation should be put into consideration as much as possible for formulating future programme. One organization did not receive the G.I. booklet, so, the participants did not get enough information about the Course before leaving for Japan.

b) Identification of Technical Problems in Egypt

Although the Egyptian participants are using the Egyptian methods which are different from those used in Japan, they are doing their best in making modification in an attempt to apply practically what they learnt in Japan for the betterment of their job. Some are of opinion that, if conceptual as well as financial back up is given more, their work would be more facilitated.

c) Subjects which were found to be useful

1) Lectures

It is pointed out that some of the lectures, field visits and training were not enough. So, further details are necessary to meet actual needs. The majority of ex-participants recommended extending the duration of the course. Some of them asked for an advanced course. Others asked to increase follow-up activities through providing them with up-to-date information and circulars.

2) Practical Training

Some ex-participants requested the increase of the practical training and field visits. It may require further study in consideration to the requirement of the other participating countries and it's possibility of materialization.

d) Balance of Time Allocation

It is acceptable for all participants except for increasing practical training and extending duration of the course.

- (2) Suggestions and opinions as to the follow-up activities are as follows: Although the Ministry of Foreign Affairs appreciated the cooperation between both governments in this field of training, they suggested that it is necessary to extend training to other vital and important fields.

VIII. THE TEAM'S COMMENT

It is found that 7 out of 20 ex-participants (35%) left their sea related job in Egypt. The team hope that they still work as experts in the fields of the concerned profession.

The team felt happy to kind that all the participant except the above are working hard with sincerity and enthesiasm for making possible improvement modifying what they learn in Japan.

The team was especially impressed by Gen.Hami Hassan who keeps constant oversee and encourages the ex-participants to maximamly utilige their obtained knowledge and experience.

Through the visits to the organizations concerned and discussions with the ex-participants and their superiors, we have received many suggestions and comments on the training course.

For the merit of this training course, every authority and organization, without any exception, acknowledged the continued necesify of sending participants respectively in the future.

Some authorities proposed to establish many additional training courses in Japan and also to creat third country training for the neighboring countries programme of this kind in Egypt with respects to the advantages of training effect as well as locality and expenses. Taking those valuable opinions into consideration, we would like to exert further efforts to improve Seafarer's Management System Course.

(タンザニア)

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)
TOKYO INTERNATIONAL CENTRE (TIC)
49-5, 2-CHOME, NISHIHARA, SHIBUYA-KU
TOKYO 151 JAPAN

Dar-es Salaam, August 20, 1992

Dear Sir,

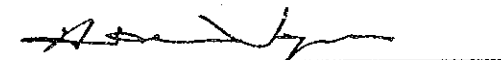
It is my great pleasure to submit the summary report of the Follow-up Team for Ex-participants of Seafarer's Management System (former name - Administration for Seamen's Education) Course.

The Team, which was dispatched by the Japan International Cooperation Agency as part of its technical follow-up programme for the returned participants in Seafarer's Management System (former name - Administration for Seamen's Education) Course and consists of three members as mentioned below, arrived in United Republic of Tanzania on August 23, 1992 and then continued its follow-up activities for the period of five days.

During the visit, we could obtain many valuable comments and suggestions about this Course from the competent authorities concerned and also from the ex-participants and other people concerned. We are quite sure that the information we obtained should be greatly useful for the purpose of improving this training course and also technical cooperation programme.

Finally I would like to express my heartiest appreciation for your warm hospitality and kind cooperation extended to us during our stay in your country.

Yours faithfully.



Hideo TAKEI

Leader, Follow-up Team for Ex-participants
of the Seafarer's Management System
(Administration for Seamen's Education)

SUMMARY REPORT

The Technical Follow-Up Team for JICA Participants who attended Seafarer's Management System (Administration for Seamen's Education) Course

I. OBJECTIVES

The Follow-up Team visited ex-participants, their organizations and related organizations for the purpose of

- i) researching the overall sector of this training field in the countries the team visits, thus contributing to identification of problems and needs of ex-participants which they may now have in their daily execution of work.
- ii) providing consultation through evaluation of the results of the training in Japan, thus checking the applicability of the training items and
- iii) improving the JICA's future training program in the field of Seafarer's Management System.

II. PERIOD:

From August 23, 1992 to August 28, 1992

III. MEMBERS

- (1) Mr. Hideo TAKEI
Management Director,
Tokyo International Center
Japan International Cooperation Agency
- (2) Mr. Takeshi YAGI
Professor (Engineering)
Institute for Sea Training,
Ministry of Transport
- (3) Mr. Toshio WADA
Senior Advisor,
Marine Department,
The Maritime International Cooperation Center of Japan
Japan International Cooperation Agency

IV. SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM

1. Aug. 23 (Sun.) Arr. Dar-es Salaam (KL563)
2. Aug. 24 (Mon.)
 - Visit to JICA Office
 - Courtesy Call to Ministry of Foreign Affairs
 - Courtesy Call to Ministry of Communications & Transport
 - Courtesy Call to the Embassy of Japan
3. Aug. 25 (Tue.)
 - Move to Zanzibar by Sea Express
 - Courtesy Call to Ministry of Communications & Transport
 - Meeting with Ex-participant
 - Visit to Organization of Tanzania Trade Union
 - Meeting with Ex-participant
4. Aug. 26 (Wed.)
 - Visit to Shipping Corporation of Zanzibar
 - Meeting with Ex-participants
 - Move to Dar-es Salaam by Sea Express
5. Aug. 27 (Thu.)
 - Visit to Tanzania Harbours Authority
 - Meeting with Ex-participants
 - Visit to Tanzania Coastal Shipping Line
 - Meeting with Ex-participant
6. Aug. 28 (Fri.)
 - Seminar (New Africa Hotel)
 - Friendship Party hosted by the Team
7. Aug. 22 (Sat.) Lv. Dar-es Salaam (07:40) BA068

V. TANZANIAN PERSONNEL WITH WHOM THE TEAM MET

1. Ministry of Foreign Affairs
Amb. Chiallo
Director for Asia & Australasia
2. Ministry of Communications & Transport
Mr. Maregeri
Director of Personnel
Mr. Ole-Kambainei
Director of Shipping
3. Ministry of Maritime Transport (Zanzibar)
Mr. Maisara
Principal Secretary
4. Shipping Corporation of Zanzibar
Mr. Haji Suleiman Haji
Acting General Manager
5. Tanzania Harbours Authority
Mr. Mwakasisi
Director of Manpower Development & Administration
6. Tanzania Coastal Shipping Line
Mr. Lutavi
General Manager

VI. EX-PARTICIPANTS WITH WHOM THE TEAM MET (Tanzania)

<u>YEAR OF TRAINING</u>	<u>NAME</u>	<u>PRESENT POST</u>
1979	MR. RAMADHAN SALEH HUSSEIN	PORT OFFICER, PORT & MARINE DEPT., MINISTRY OF COMMUNICATION
1981	MR. ABRAHMAN HASSAN CHANDE	GENERAL SECRETARY, SEAMEN UNION, ORGANIZATION OF TANZANIA SEAMEN UNION, ZANZIBAR
1984	MR. ALI MKOPI SALIM	TRAINING OFFICER, ADMINISTRATIVE DEPT., THE SHIPPING CORPORATION OF ZANZIBAR
1987	MR. SULEIMAN MUSSA AMEIR	ASSIST. ADMINISTRATIVE MANAGER, THE SHIPPING CORPORATION OF ZANZIBAR
1989	MR. OTHMAN ALI OTHMAN	ASSIST. BRANCH MANAGER, DAR ES SALAAM, THE SHIPPING CORPORATION OF ZANZIBAR
1990	MS. SIBILINA ELEZA ALLEN TEMU	ACTING ADMINISTRATIVE MANAGER, ADMINISTRATION DEPT., TANZANIA COASTAL SHIPPING LINE LIMITED
1991	MR. CLAUDIO MICHAEL MBENA	MANPOWER DEVELOPMENT MANAGER, MANPOWER DEVELOPMENT & ADMINISTRATION, TANZANIA HARBOURS AUTHORITY

VII Summary of Findings

(1) General

All the authorities and the organizations concerned acknowledged with appreciation the significance of this training course.

They observe that objectives set on the Course is appropriate to the requirements of Tanzania and achievement obtained thereof is beneficial. In fact the ex-participants are contributing to the Tanzanian shipping industry.

It was particularly mentioned that since Tanzania is now in the process of strengthening institution building for maritime affairs, human resources development in all the fields required is of keen necessity, and, therefore, a succession of sending participants to the course with more seats is requested.

(2) Specific

All the organizations to which the ex-participants belong and the ex-participants themselves as well expressed that even though there are many differences and gap between Japan and Tanzania, the course helped them greatly broaden their insight and made them well prepared to cope with their duties for further improvement.

Suggestions given for the purpose of improving the course in future are : i) although the objectives are not necessary to be changed, duration should be extended for 3 to 4 months, ii) it would be more informative through comparative study, if countries in the similar situation like Tanzania are invited in greater number, iii) intermediate evaluation had better been held, iv) follow up activity

as to provide technical information is very much desirable.

Pertaining to additional proposals, those requested are; i) increase of seat allocation in the course, ii) set up of refresher course, iii) allocation for such available training courses as computer application, human resources development, occupational health and safety, port and cargo security, equipment maintenance etc. and iv) establishment of seafarers training centre, provision of training ship.

VIII Comments of the Team

The team was very much encouraged to find that the ex-participants are doing their best in multiplying as working tool what they gained through the course as much as possible with good understanding and help extended by the authorities concerned.

It is notable that all the authorities concerned are keeping watch on the duty performance of the ex-participants with respects to effective usage of what they learned in Japan, however, they still have difficulties in terms of budget, facilities, difference of concept in some cases, and so forth, for which they may require continued support by their parent organizations.

In response to the needs of the seafarers management development it is identified that this training course is very useful. With this recognition, all the comments, opinions, suggestions, advices are taken into consideration in order to make the course more improved.

JICA

